令和3年度 事業報告書

(令和3年4月1日から令和4年3月31日まで)

学校法人 西日本短期大学

I 法人の概要

- (1) 基本情報
 - ①名称 学校法人西日本短期大学
 - ②住所 〒810-0066 福岡県福岡市中央区福浜1-3-1

電話 092-721-1141 (代表) FAX 092-721-1536

ホームページ https://www.nishitan.ac.jp/

(2) 建学の精神

『宇宙精神』 • 『報恩感謝』

- (3) 学校法人西日本短期大学の沿革
- 昭和23年12月 福岡市城内(旧黒田52万石の居城・舞鶴城跡)に戦災者、引揚者、遺家族の困窮学徒の勉学修道場として、創立者江口繁「学生の街大憲塾」を開設。
- 昭和30年3月 福岡県知事より各種学校の認可を受け、「大憲塾法学院」と改称。
- 昭和30年4月 中央大学法学部通信教育部連絡校に指定。
- 昭和32年3月 九州労働短期大学(直方市上新入)認可。
- 昭和34年4月 大憲塾法学院と九州労働短期大学は合併して、学校法人西日本短期大学を直方市上新入に 設置し、校名を、九州労働短期大学は西日本短期大学(法科)、大憲塾法学院は西日本法 律専門学校と改称し、法人理事長に江口繁氏、短期大学長に宇賀田順三氏、法律専門学校 長に江口繁氏就任。
- 昭和37年4月 学校法人及び西日本短期大学(法科)を八女市大字亀甲に移転。
- 昭和37年4月 八女市に西日本短期大学附属高等学校(全日制普通課程)を開校。
- 昭和41年12月 学校法人理事長に江口昭八郎氏、前理事長江口繁氏会長に就任。
- 昭和42年1月 西日本短期大学造園科認可。
- 昭和42年9月 西日本短期大学附属高等学校校舎落成。
- 昭和43年2月 学校法人理事長江口昭八郎氏、西日本短期大学長事務取扱兼務。
- 昭和45年11月 福岡市中央区福浜一丁目に学校用地を取得。
- 昭和46年4月 西日本法律専門学校を福岡市中央区福浜に移転。
- 昭和48年4月 西日本短期大学法科を八女市から福岡市中央区福浜に移転。
- 昭和48年12月 学校法人理事長に内田松太氏就任。
- 昭和49年9月 学校法人会長に江口昭八郎氏就任。
- 昭和49年9月 学校法人理事長に江口敏夫氏就任。
- 昭和53年5月 学校法人理事長江口敏夫氏、西日本短期大学長事務取扱兼務。
- 昭和56年10月 学校法人理事長に辻英雄氏、副理事長に高田源清氏就任。
- 昭和59年4月 西日本短期大学造園科を福岡市中央区福浜に移転。
- 平成6年10月 学校法人理事長代行に溝口虎彦氏就任。
- 平成7年8月 学校法人理事長に溝口虎彦氏就任。
- 平成8年4月 学校法人本部を八女市から福岡市中央区福浜に移転。
- 平成8年4月 西日本法律専門学校廃校。
- 平成8年8月 西日本短期大学附属高等学校創立35周年記念館落成。
- 平成10年4月 西日本短期大学創立50周年記念事業として二丈キャンパスあずまや落成。
- 平成10年10月 西日本短期大学創立50周年記念式典。
- 平成14年12月 西日本短期大学社会福祉学科認可。(平成15年3月 介護福祉士養成施設指定)
- 平成16年4月 西日本短期大学附属高等学校茶道会館落成
- 平成16年11月 西日本短期大学保育学科認可。(平成17年3月 指定保育士養成施設指定・幼稚園教諭二種免許課程認定)
- 平成19年4月 西日本短期大学法科第二部を学生募集停止。

西日本短期大学保育学科入学定員増(75人→100人)

平成20年4月 西日本短期大学健康スポーツコミュニケーション学科設置。 (平成19年9月 第一種衛生管理者免許に係る指定校認定)

西日本短期大学別科日本語研修課程設置。

平成21年3月 西日本短期大学【第1回】第三者評価((財)短期大学基準協会)適格認定。

平成21年3月 西日本短期大学法科第二部廃止。

平成22年4月 西日本短期大学別科日本語研修課程入学定員增。(60人→100人)

平成23年4月 西日本短期大学メディア・プロモーション学科設置。

平成23年10月 西日本短期大学法学科夜間主コース学生募集停止。

平成24年5月 収益事業部設置。

平成25年9月 西日本短期大学法学科夜間主コース廃止。

平成28年3月 西日本短期大学【第2回】第三者評価((一財)短期大学基準協会)適格認定。

平成29年10月 西日本短期大学緑地環境学科50周年記念行事。

平成30年4月 西日本短期大学法学科をビジネス法学科に名称変更。

平成30年4月 西日本短期大学別科日本語研修課程入学定員増。(100人→150人)

平成30年12月 西日本短期大学別科日本語研修課程10周年記念行事。

平成31年4月 西日本短期大学ビジネス法学科入学定員減。(70人→60人)

西日本短期大学緑地環境学科入学定員減。(70人→60人)西日本短期大学社会福祉学科入学定員減。(60人→50人)

令和2年4月 西日本短期大学ビジネス法学科入学定員減。 (60人→50人)

西日本短期大学緑地環境学科入学定員減。(60人→50人)

西日本短期大学健康スポーツコミュニケーション学科入学定員減。(40人→30人)

令和3年4月 西日本短期大学保育学科入学定員減。(100人→90人)

令和4年3月 収益事業部廃止。

(4) 設置する学校、学科等の入学定員、現員等

西日本短期大学

(令和3年10月1日現在)

学 科 名	入学定員(人)	収容定員(人)	入学者数(人)	在籍者数(人)	充足率(%)
ビジネス法学科	50	100	48	96	96. 0
緑地環境学科	50	100	37	71	71. 0
社会福祉学科	50	100	55	109	109. 0
保 育 学 科	90	190	45	107	56. 3
健康スポーツコミュニケーション学科	30	60	12	28	46. 7
メディア・プロモーション学科	40	80	20	49	61. 3
計	310	630	217	460	73. 0

別科

(令和3年10月1日現在)

課 程 名	入学定員(人)	収容定員(人)	在籍者数(人)	充足率(%)
日本語研修課程	150	150	19	12. 7

附属高校 (令和3年10月1日現在)

課程名	入学定員(人)	収容定員(人)	入学者数(人)	在籍者数(人)	充足率(%)
普通科	200	600	146	430	71. 7

(5) 卒業者数、学位授与数等(令和3年度卒業生)

西日本短期大学

学 科 名	卒業者数(人)	備考
ビジネス法学科	50	
緑地環境学科	29	
社会福祉学科	54	
保 育 学 科	62	
健康スポーツコミュニケーション学科	16	
メディア・プロモーション学科	30	
計	241	

別科

課程名	卒業者数(人)	備考
日本語研修課程	19	

附属高校

課 程 名	卒業者数(人)	備考
普 通 科	138	

(6) 進路状況(令和3年度卒業生)

西日本短期大学

四日平起别八子	•									
	卒業者数	就職希望者数	就職者数	内定率	自営業、無 期・有期雇 用労働者	アルバイト (パート含む)	編入者数	進学者数	家事 手伝い	未決定者 他
ビジネス法学科	50	42	41	97.6%	32	9	4	1	0	4
緑地環境学科	29	26	26	100.0%	26	0	1	0	0	2
社会福祉学科	54	51	50	98.0%	50	0	1	2	0	1
保 育 学 科	62	57	57	100.0%	57	0	0	0	0	5
健康スポーツコミュニケーション学科	16	14	14	100.0%	12	2	1	0	0	1
メディア・プロモーション学科	30	19	17	89.5%	8	9	1	1	0	11
小計	241	209	205	98.1%	185	20	8	4	0	24

別科

	卒業者数 (2年目修学者数 も含む)	西日本短期 大学へ進学	他大学、 専門学校へ 進学	帰国、 その他	就職	別科へ 残り(2年目)	大学への進	他大学、 専門学校へ の進学率
日本語研修課程	19	7	9	0	3	0	36.8%	47.4%

西日本短期大学附属高等学校

	卒業者数	大学等 進学者数	専門学校 へ進学	就職者数	公共職業 能力開発 施設等	一時的な仕 事に就いた 者	未決定者	進学率	就職率
普通科	138	70	33	35	0	0	0	74.6%	25.4%

(7) 教職員の人数(令和3年5月1日現在)

〈教員数〉

短期大学 (学長は含まない)

/===>91> € 1	() > ()	- 11 55 55 1	/						
学科名	教 授	准教授	講師	助教	助手	小 計	非 常 勤	小 計	合 計
ビジネス法学科	3	1	1	1	0	6	客員 2名 29	31	37
緑地環境学科	3	4	1	0	1	9	客員 3名 11	14	23
社会福祉学科	2	0	4	0	2	8	客員 2名 13	15	23
保 育 学 科	4	2	1	2	0	9	客員 0名 20	20	29
健康スポーツコミュニケーション学科	1	2	0	2	0	5	客員 0名 19	19	24
メディア・プロモーション学科	2	1	0	3	0	6	客員 1名 18	19	25
計	15	10	7	8	3	43	8 110	118	161

別科

課程名	別科長	教 員	_	小 計	非 常 勤	小 計	合 計
日本語研修課程	(1)	(3)	_	(4)	15	15	(4) 15

※注・・・()内の4名は、各学科の教員数でカウント。

附属高校

課程名	校 長	副校長	副教頭	教諭	養護教諭	講師	小 計	非常勤	小 計	合 計
普 通 科	1	1	2	14	1	14	33	13	13	46

〈職員数〉

()内は嘱託 -内数-

学科名			
法 人 本 部	1	名	(1)
ビジネス法学科	6	名	(1)
緑地環境学科	4	名	(1)
社会福祉学科	7	名	(1)
保 育 学 科	7	名	
健康スポーツコミュニケーション学科	2	名	
メディア・プロモ―ション学科	3	名	(1)
別科	0	名	
計	30	名	(5)
附属高校	6	名	(1)
合計	36	名	(6)

※臨時職員除く。

(8) 理事・評議員・監事について (令和3年4月1日現在)

21条1項1号

① 理 事

8条1項1号 溝口 虎彦 8条1項2号 新宮 五三 溝口 智之 8条1項3号 阿利 欽章 今永 一成 8条1項4号 田坂 大藏 北嶋 藤孝

監 事

15条内田 信行柴田 浩勝

② 評議員

富永 明子 橋本 五男 多賀 晃 枝元 一登 21条1項2号 阿利 欽章 権藤 邦彦 古家司 近藤 久文 星子 和夫 一山 幸子 川波 慎太郎 別府 壽信 執行 英利 髙宮 さやか 小山 徹志 大里 公二 水浦 逸 井上 靖 弓削 博輝 真子 一博 溝口 虎彦 21条1項3号 杉山 量造 新宮 五三 溝口 智之 北嶋 藤孝 21条1項4号 古田 雄三 森田 修示 北野 哲也 清水 進

久保田 家且

中野 幹子

大浦 太津也

Ⅱ 事業の概要

1. 法人関係事業

(1)収益事業部の廃止

事業収益を学校経営の一部に補填し学園全体としての財務体質の安定化を図ることを目的として、平成24年度に収益事業部門の立ち上げを行い、その中の不動産ビルの賃貸運営業務を行ってきたが、令和3年度をもって廃止した。

2. 西日本短期大学

(1)学校運営

①経営改善計画進捗状況の報告

令和元年10月に実施された学校法人運営調査委員による調査結果に基づき、同年に文部科学省からの指導及び日本私立学校振興・共済事業団による経営相談を受け、令和2年10月に『経営改善計画(5ヶ年計画)』を文部科学省へ提出した。今後は、計画の進捗状況等を毎年報告することになっており、今年度は2年目の報告を行った。

②IR (Institutional Research) の構築

令和2年度から I R室を本格的に立ち上げるため、『西日本短期大学 I R室規程』の制定手続きを行った。(令和2年4月1日制定)

- (ア) 教育研究・経営・財務情報など大学の諸活動に関する情報収集・蓄積。
- (4) 特に学生の学習成果など教育機能についての調査分析。
- (ウ) 大学経営の基礎となる情報の分析を行い、それらの分析結果の提供を通じて、大学の自己 評価、意思決定に寄与する活動を行う。
- (エ)経営改善に生かす。

③特待生制度の導入

他の模範となる優秀な人材の育成に資することを目的として、平成25年度入学生から導入、令和4年度入試においても引き続き全学科で実施した。

④学習継続のための支援体制の充実

経済的理由により就学が困難な学生に対し、本学独自に支援を行った。具体的には、対象学生が本学と提携している金融機関より教育ローンを借用した場合、在学中に支払われた利子相当額を本学が助成し、学習継続のための支援を行った。令和3年度は新入生を含め12名が利用した。(H30年度(14名)、R1年度(13名)、R2年度(10名))

⑤スクールカウンセラーの導入

心の問題を抱える学生のサポートや様々な課題に直面する学校現場でストレスを抱える教職員へのメンタルへルスケアなど、学校におけるカウンセリング機能の充実を図るため、平成 24 年 11 月、臨床心理に専門的な知識・経験を有する学外の専門家(週1回、非常勤)を配置し、令和3年度も引き続き実施した。相談件数は年間を通じ約139件にのぼり、内容は対人関係・学業・家族など多方面に渡っている。

⑥公共機関から委託された職業訓練生の受け入れ

平成 21 年度から福岡高等技術専門校より職業訓練生の受け入れを行っている。令和3年度も引き続き受け入れ要請があり、保育学科1名の受け入れを行った。社会福祉学科においては、外国人留学生の受入増加等により、令和3年度から受け入れを取りやめた。

⑦公開講座の実施

●緑地環境学科

以下の(2)~(3)については実施できなかったが、その他企画については、回数調整や規模の縮小、オンライン等を活用して実施することができた。

- (1) 予定していた福浜小学校区における「エコ&緑の体験教室」等は中止となったが、次の企画を実施することができた。
 - ・当仁中学校のオリンピック記念庭園
 - ・唐人町商店街での七夕飾り
 - 日本庭園平田邸の剪定
 - ・夢松原の会が主催する海の中道松の間伐と国体道路での花壇整備
 - 植物園でのワークショップ
- (2) 世界で活躍する造園家・ランドスケープアーキテクトであり、本学客員教授の内山貞文氏と公開講座を企画。
- (3) 若年層の市民を対象とした探訪エコツアー「自然と人の共生を考える」等、みどりの環境に関する教育啓発活動。
- (4) 各関連協会や組合と連携した専門的な勉強会や講演会の企画を行う。
- (5) 企業、行政、大学と「造園・自然環境・園芸の仕事・職能」について考える「みどりの研修会 I・II」を開催。
- (6) 学生のまとめの発表会である「学びの発表会」をオンラインも含め開催し、一般にも公開。
- (7) 放課後に造園・ランドスケープの専門家を招いた勉強会を定期的に開催し公開する。

●社会福祉学科

以下のプログラムを予定していたが、新型コロナウイルスの影響で実施できなかった。

- (1) 認知症サポーター養成講座
- (2) 福岡県介護の日イベント
- (3) 手話講座
- (4) 福祉レクリエーション
- (5) アロマセラピー体験
- (6) 福浜団地住民を対象にアロマセラピー、セラピーメイク、絵本読み聞かせボランティア
- (7) 福浜校区ふれあいネットワーク研修
- (8) ご近所応援団定例会
- ●健康スポーツコミュニケーション学科

以下の(1)~(4)について、新型コロナウイルスの影響で一部中止したが、昨年度より積極的に実施することができた。

(1) 楽動塾 2021

からだを「楽」しく「動」かしながら運動への関心を高め、巧みにカラダや物を操り、運動神経を高めることを目的に3回開催として計画したが、新型コロナによる緊急事態宣言の影響で第1回目は中止とした。第2回目、第3回目は予定通り実施し、参加児童、保護者より大変好評をいただいた。そこでは、コロナ禍で多くの幼児・児童を対象とした行事がことごとく中止となり、子どもたちの運動活動への欲求が高まっていることを保護者から聞くこともできた。

(2) 西短キッズスポーツフェスティバル 2021

楽動塾やこれまでのキッズ系の学びの集大成として西短キッズスポーツフェスティバルを 実施した。9回目となる令和3年度も、学生自らが主となりプログラムやイベントの流れを 作成し、学生のみで企画・運営・指導まで行った。

本年も楽動塾とともに、事故無く終了することができ、子どもさんや保護者の方からプログラムの内容や学生の対応など、今回も好評をいただいた。今後も地域社会における本学の社会的役割を果たしていくためにも継続する必要性があると強く感じた。

(3) 健康ランニングクリニック 2021

学科イベントである「シーサイドももち駅伝 2021」と同時開催で、「健康ランニングクリニック 2021」を開催予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため開催を見送ることとなった。しかし、駅伝大会そのものは学内関係者のみで実施した。

(4) 福浜健康体操教室

2020 年から福岡市中央区から依頼され計画されていたが、新型コロナの影響で2021 年から毎月第一金曜日に開催した。これは学生や教員が福浜地区の高齢者を中心に運動指導をするもので、少しずつ参加者数が増えてきて、今後も地域社会に貢献できることを実感した。

●メディア・プロモーション学科

令和3年度は以下の活動を行い、これらの活動成果が評価され、令和4年度以降も継続することとなった。

- (1) 学科アイドルユニット「西短MP 学科さくら組」が福岡税務署の「一日税務署長」を務め、 国税局の問い合わせシステム「チャットボット」の PR を行う。
- (2) 財務省福岡財務支局の依頼で、財政についての教育用動画ナレーションを担当した。また、同じく福岡財務支局の依頼で、詐欺防止のための教育用ドラマの制作を行った。
- (3) 能古島および福岡の活性化のために令和3年度から始まったイベント「能古島国際映画祭」に本校として協賛し、また、実行委員を本学科教員が務め、福岡の各界有志と共に社会や地域の発展のために尽力した。また、同映画祭のオープニングイベントに、学科アイドルユニット「西短 MP 学科さくら組」が出演し、地域の活性化に貢献した。

⑧学生送迎バスの運行継続

八女・筑後地区の学生(主に附属高校出身者)を送迎するため、令和3年度もスクールバスの 運行を継続して実施し、47名の学生が利用した。送迎バスが運行されているので短期大学に入 学するという学生もおり、学生募集の一助となっている。

令和3年度も新型コロナウイルス対策として、乗車人数を分散させるために1号車の経由地点を増やし、以下のとおり運行した。

- (1) 1号車(大型): 附属高校 ⇒ 羽犬塚駅 ⇒ 西鉄久留米駅 ⇒ 短期大学
- (2) 2号車(マイクロ): 西鉄久留米駅 ⇒ 短期大学

⑨その他、各学科の取り組み

●緑地環境学科

高齢者福祉施設と連携し、園芸福祉の知見を活かし、高齢者と学生や地域の人々との交流が可能な園芸福祉ガーデンを作庭した。

また、近隣の中学校と連携し、校庭に休憩スペースを作庭した。

●社会福祉学科

学科内で以下の教育プログラムを実施した。

- (1) コミュニケーション能力向上のための教育プログラム
- (2) 記述力向上プログラム
- (3) 障害者介護教育プログラム
- (4) 国家試験対策教育プログラム
- (5) 四年制大学編入対策講座
- ●健康スポーツコミュニケーション学科

佐藤ゼミナールでは、2015年から福岡市中央市民プール主催の『気軽にたのしく♪「健」スポ体操』での指導を月1回担当しているが、令和3年度も新型コロナウイルスの影響で施設利用者数の制限を受け、中央市民プールでのレッスンは全て中止となった。

(2)別科日本語研修課程

新型コロナウイルス感染拡大のため、すべての対面型研修・交流会が開催できなかったが、オンラインで、韓国の「グローバル現場実習日本語・職場研修プログラム」を実施した。これは、韓国の短期大学協議会と契約して進めた取り組みで、韓国で日本語及び日本文化を学ぶ大学生20名ほどが参加した。令和3年9月の一か月間の研修であったが、韓国側には非常に好評で、令和4年度も継続してほしいと依頼があった。

(3)国際交流、留学生受け入れ

①留学生募集【国外】

令和3年度も前年度から COVID-19 の影響が継続しており、出入国制限のため、中国及びベトナムでの募集活動は全くできなかった。そのような中でも、オンラインによる授業や、仲介業者及び卒業生等の人的ツールを活用しての個別募集活動を行ってきた。また、本学の講義内容や取り組みについて、ホームページやSNSを通して幅広く募集活動を行った。しかし、令和3年度の国外からの留学生数は激減した。今後の国外における募集活動は、COVID-19の影響は緩和されつつあるものの、更なる留学生の争奪が予想されるため、仲介業者との連携だけではなく、卒業生やその保護者にも働きかけ、より細やかな関係を築き、募集に繋げていきたいと考えている。

②留学生募集【国内】

日本国内の募集活動については、主に各学科の教員が、福岡市内の日本語学校や専門学校に訪問し、入学に結びついている。

※留学生の入学状況(令和3年度実績)

• 正規生

				春 季	秋 季
中			囲	6名	0名
韓			国	1名	0名
~	ト	ナ	ム	16名	0名
ネ	パ	_	ル	3 0名	0名

• 別科生

				春 季	秋 季
中			囲	2名	3名
ベ	ト	ナ	7	5名	1名

③留学生募集協定業者

留学生受け入れ手段として、学校や仲介業者との協定を締結し、現地での学生募集に留まらず、訪問の際の手伝い等を依頼している。今後は、今まで実績がなかった仲介業者を開拓し、COVIT-19 終息後の募集活動に備えたいと考える。

令和3年度までに協定締結を行った学校・業者は以下のとおりである。

協定等の締結を行っている学校

(中国)

- 白城師範学院
- •煙台大学文経学院
- · 日中合作山東国際文化交流学院
- · 上海滬北外国語進修学校
- 大連報徳言語培訓学校
- 中国海洋大学国政際教育学院
- 江蘇泰州畜牧獸醫職業技術学院経済貿易系
- 上海中僑職業技術学院
- 江蘇省興洪中学
- 華中科技大学武昌分校
- 黄岡市外国語学校
- 塩城工学院

- 中国黒龍江省社会科学院職工大学
- •瀋陽新幹線外国語学校
- · 上海思博職業技術学院
- 上海工商職業技術学院
- · 上海震東商務進修学院
- 長春市福祉培訓学校
- 江蘇農林職業技術学院
- 東北師範大学
- · 武漢唐人職業培訓学校
- · 畜牧獣医職業技術学院

(ベトナム)

- ・JAPANESE LANGUAGE CENTER NUI TRUC(テュイ日本語学校)
- · TOKYO JAPANESE LANGUAGE SCHOOL(東京日本語学校)
- VIETNAM NATIONAL UNIVERCITY, HONOY
- ・PHAN DINH PHUNG 高校
- THANH TAY 大学
- · Ngo Quyen 高等学校
- · Dai Nam 大学
- · PHAN THIET 大学

協定等の締結をおこなっている業者

(中国)

- · 上海蘇德科技発展有限公司
- ・重慶瑞潮出国商務諮詢有限公司
- ・武漢市国際交流サービスセンター
- ・青島海亀ツーリズム企画所
- 中関村衆恒創新創業情報化発展研究所

(ベトナム)

- · APEX 文化教育開発株式会社
- \cdot JTC
- · QUOC DINH 教育投資株式会社
- ・VIET ANH 留学諮問センター
- さくら-VT日本留学センター
- · VLEARNING 外国語教育訓練有限会社
- VIETNAM NATIONAL CO,LTD
- SiPM Group SiPM Education
- VIASERCO
- · NAM HAM
- · Hanoi Foreign Language Center
- · KCS Viet Nam
- · Viet Star
- ATLANTIC INTERNATIONAL EDUCATION TRAINING COMPANY
- HAVICO INTERNATIONAL, JSC
- ・PHAN THIET 大学人材開発ンター

(日本)

- ・株式会社 DLC・GB コンサルティング
- ・株式会社チームワールド
- ・株式会社 J V B

- ・株式会社HAKU
- · Zero One Limited

(4)その他の事業

◎研究活動

各学科、別紙のとおり研究活動を行った。 令和3年度の研究紀要をまとめた「西日本短期大学 総合学術研究論集 第12号」を令和 4年3月に発行した。

(5)施設·設備関係

令和3年度に整備を行った主なものは、別添(財務部)事業報告書のとおり。

西日本短期大学附属高等学校

1. 教育事業

(1) 伝統文化授業必修化

令和3年度入学生より伝統文化授業を必修化し、八女市の特産品であるお茶に触れることで 礼儀作法等習得できる機会を設けている。

(2) 健康スポーツコース募集内容変更

指定強化クラブの生徒のみが在籍するクラスであったが、制限を無くすことでクラブに属さない生徒もコース選択できるようになった。

2. 学生募集事業

- (1) 体験入学、各種説明会(中学校 PTA・中学校教員・塾説明会)、中学校・塾訪問及び連絡会
 - 10月、11月開催予定の体験入学2日間を4日間に増やして実施(5月、8月中止分)
 - 中学校への説明会や出前授業は、例年より3割程少ない実施となった
- (2) 学校案内・校内報・ポスター・各種チラシ等の作成

3. 催事関係

- (1) 私学展 昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響により中止
- (2) 学校イメージアップ活動
 - 久留米市城島図書館、大木町図書館にポスター掲示・紹介資料置き場を設置
- (3) 勉強会・面接会 定期訪問校47校で実施

4. 施設・設備関係

令和3年度に整備を行った主なものは次のとおり。

- ① コンディショニング室設置 O2ボックスを設置し、専属トレーナーを雇用
- ② 野球場照明工事(LED化) 野球場グラウンドの照明を全てLED化(完了)
- ③ 吹奏楽部楽器の購入

Ⅲ. 財務の概要(1) 事業活動収支の状況について

単位		-	ш
$\mathbf{H}\mathbf{M}\mathbf{M}$	٠	千	ш
		- 1	1 1

	科		元年度	令和2年度	令和3年度
		学生生徒等納付金	749,080	750,081	707,892
	事	手 数 料	12,469	11,300	10,381
	業 活	寄 付 金 (A)	34,345	6,484	13,134
	動	経常費補助金	296,546	299,873	260,691
教	収	付随事業収入	14,590	7,227	5,585
育	入	雑 収 入	65,661	73,524	12,788
活		教育活動収入計	1,172,691	1,148,489	1,010,471
動	-1-	人 件 費	769,146	733,600	666,936
収土	事	教育研経費	438,617	416,662	440,480
支	業 活	うち、減 価 償	133,750	134,961	137,396
	動	管 理 経 費	141,142	123,344	122,031
	支	うち、減 価 償	12,942	13,173	12,669
	出	徴 収 不 能 額	0	0	0
		教育活動支出計	1,348,905	1,273,606	1,229,447
		教育活動収支差額	\triangle 176,214	\triangle 125,117	△ 218,976
教	動事	受取利息・配当金	40	24	22
育	収業	その他の教育活動外収入	20,000	20,000	891,135
活	入活	教育活動外収入計	20,040	20,024	891,157
動	動事	借入金等利息	5,177	4,977	3,543
外収	支業	その他の教育活動外支出	0		0
支	出活	教育活動外支出計	5,177	4,977	3,543
	教 育 活	動外収支差額	14,863	15,047	887,614
経	常収		\triangle 161,351	△ 110,070	668,638
	動事	資 産 売 却 差 額	520	0	459
4-1-	収業	その他の特別収入	2,259	15,511	14,793
特別	入活	特 別 収 入 計	2,779	15,511	15,252
収	動事	資 産 処 分 差 額	338	145	2,280
支	支業	その他の特別支出	0	3	0
	出活	特 別 支 出 計	338	148	2,280
	特別	収 支 差 額	2,441	15,363	12,972
基本			△ 158,910	△ 94,707	681,610
		且入額合計	\triangle 42,752	△ 22,796	△ 57,183
当	年 度	収 支 差 額	△ 201,662	\triangle 117,503	624,427
	年 度 繰	越収支差額	\triangle 4,147,215	\triangle 4,348,877	△ 4,466,380
基	本金		0	0	0
쟾 4	年 度 繰	越収支差額	\triangle 4,348,877	\triangle 4,466,380	\triangle 3,841,953

(参考)

事	業	活	動	収	入	計	1,195,510	1,184,024	1,916,880
事	業	活	動	支	出	計	1,354,420	1,278,731	1,235,270

(2) 貸借対照表

単位:千円

資	産	の部		負債•基	基本金及び消費収	又支差額の部	7-12-111
科 目	元年度	令和2年度	令和3年度	科目	元年度	令和2年度	令和3年度
固定資産	3,136,789	3,027,331	3,018,411	負 債	1,183,901	1,127,075	804,371
有形固定資産	3,075,136	2,966,281	2,947,308	固定負債	672,744	259,973	310,624
特定資産	43,562	43,565	43,565	流動負債	511,157	867,102	493,747
その他固定資産	18,091	17,485	27,538	基本金	6,752,411	6,775,207	6,832,390
流動資産	450,647	408,572	776,399	第1号基本金	6,648,411	6,671,207	6,728,390
合 計	3,587,436	3,435,903	3,794,810	第4号基本金	104,000	104,000	104,000
<u>п</u> #I	3,307,430	3,435,903	3,794,010	消費収支差額	△ 4,348,876	△ 4,466,379	△ 3,841,950
				翌年度繰越消費 支出超過額	△ 4,348,876	△ 4,466,379	△ 3,841,950
				合 計	3,587,436	3,435,903	3,794,811
				減価償却累計額	3,628,295	3,746,657	3,883,605
				基本金未組入額	58,970	45,021	115,886

(3) 財務比率表

<貸借対照表>

- >			
比 率	元年度	令和2年度	令和3年度
基本金比率	99.13%	99.34%	98.33%
固定長期適合率	102.0%	117.8%	91.4%
流 動 比 率	88.2%	47.1%	157.2%
前受金保有率	121.8%	117.7%	
負 債 率	49.3%	48.8%	26.9%
基本金実質組入率	35.3%	33.9%	43.0%

<事業活動収支計算書>

比 率	元年度	令和2年度	令和3年度
人件費比率	64.3%	62.0%	34.8%
教育研究費比率	36.7%	35.2%	23.0%
消費支出比率	113.3%	108.0%	64.4%
経常経費依存率	62.7%	63.4%	36.9%
補助金比率	24.8%	25.3%	13.6%
基本金組入率	3.6%	1.9%	3.0%

(4) 収益事業

•貸借対照表

単位:千円

スロバがみ			十四.111
	元年度	令和2年度	令和3年度
流動資産	27,716	28,774	0
固定資産	659,851	651,201	0
資産合計	687,567	679,975	0
流動負債	23,975	23,300	0
固定負債	606,759	585,240	0
負債合計	630,734	608,540	0
純資産合計	56,833	71,435	0
負債•純資産合計	687,567	679,975	0

•損益計算書

単位:千円

12/1111 H			T-12.111
	元年度	令和2年度	令和3年度
売上高	77,554	84,645	50,082
売上原価			
販売管理費	55,231	58,026	1,008,422
営業外損益	△ 6,525	△ 6,355	△ 3,283
特別損益			890,259
当期純損益	15,798	20,264	△ 71,364

資料①

各学科、各部署における令和3年度の事業報告書

令和3年度 ビジネス法学科 事業報告

教育事業計画

令和3年度の当該学科の教育実施方針	備	考
① 学びの見える化:カリキュラムポリシー (CP)・ディプロマポリシー (DP) に基づき、各科目の関連		
性を意識した履修指導を行う。希望進路に即して「身につけたい力」を定め、修得に向けて自ら学ん		
でいける環境を整える。		
② 学びの共有化:学習成果を報告する場を設け、他の学生の学習状況から刺激を受けられるようにする。		
③ グループ活動の充実:キャリア演習はもちろん、クラス・ゼミナール単位でもグループワークを行う。		
人間関係を構築し、協働する力を身につけられる機会を増やす。		

計画に対する実績および自己評価

- ① 学びの見える化について:個別科目ごとの関連性を意識させた履修指導を、ガイダンスやオリエンテーションで実施した。 法律系科目、経済・経営系科目、会計系科目ごとの関連性を意識させ、各系列科目は基礎から発展科目へと展開されていることを周知したが、学生によっては自身の都合や関心を優先し、こちらの意図とは異なるかたちで履修する者も多かった。各系列科目を積み重ねて履修することの重要性や、全体を履修することで社会人としての専門スキルが身に付くことを、学生に分かりやすく伝えていく必要性があると思われる。
- ② 学びの共有化:ゼミナールでの報告やキャリア演習でのグループワーク等の報告会を通じて、演習科目では、各学生の成果を共有することはできた。講義科目での学習成果(作品)を共有することは、ほとんどできていない(一部専任科目では確認テストやコメントペーパーの相互採点・評価を実施した)。
- ③ グループ活動の充実:キャリア演習では、1 年生も 2 年生も前期・後期にグループワークを実施できた。また、クラスやゼミナールでも共同作業の機会は設けることができた。今後は、協働や相互理解を自律的に促すことができるように、明確な目標設定や進捗報告の徹底を通じ、グループワークの充実を図っていきたい。

学生募集・広報につながる教育実施計画(低迷する入学者数を増やしていくために は、どうするのか具体的に記述してください。)	備	考
① 令和2年度まで、高校内進路ガイダンスは法学系、公務員系ばかりだったが、今後は経済・会計系の		
ガイダンスにも対象を広げていく。		
② SNS・ブログのコンテンツ力の向上を図る。また、学修ポートフォリオを活用した 2 年間の学びの流		
れ、卒業研究などを題材にした学びの内容の発信を行う。		
③ オープンキャンパスでは、これまでおおむね来場者に好評だった法律クイズを継続するとともに、学		
生主体で行うコンテンツを中心に据える。		

計画に対する実績および自己評価

- ① 高校内ガイダンスは、法学系が中心ではあったが、ビジネス系のガイダンスの依頼を業者におこなっている。少しずつビジネス系の認知度が高まっているという印象を受けている。さらに、出前授業のパンフレットを作成しそのテーマとしてビジネス系の内容を多く盛り込むようにしている。
- ② SNS・ブログの発信に関しては、発信数を増やすとともに学科内行事の充実を図り、グループワークの発表、卒業研究報告会等に関しても、SNS での情報発信を行った。ゼミ研修旅行、スポーツゴミ拾い大会等の学科内行事などについても SNS で随時情報を発信した。
- ③ オープンキャンパスに関しては、従来の法律クイズに加えて、経済・経営・会計クイズのコンテンツも増やし、おおむね 好評であった。学生を中心に、クイズ・解説を行う手法も好評だった。

生活指導、実習指導、資格取得等に係わる学生に対する教員のサポート・関わり方	備	考
について具体的に記述してください。	7114	
① 学生の休学・退学防止	ı	
プレップセミナーを一部ゼミ化して行ったり、学生交流イベントを実施したりしつつ、学生同士のつ	ı	
ながりを強化して学生の孤立化を防ぎ、退学防止につなげる。	ı	
②資格取得の推奨および支援	Ī	
入学直後より取得を推奨する資格の案内をする。簿記やFP、秘書検定など、授業科目として設置され	Ī	
ている資格については、授業を通じて受験を奨励し合格を目指す。必要に応じて対策講座を実施し、資	Ī	
格によっては外部主催の模試や大会等に参加する。さらに、令和3年度から「資格・検定奨励金制度」	l	
を設立し、資格取得の支援を行う。	Ī	
	ı	

計画に対する実績および自己評価

- ① 学生の休学・退学防止に関しては、プレップセミナーの一部でクラスごと授業、面談を実施した。それにより、出席率の低下した学生、就学意欲の低下がみられる学生等を早期に見つけることができた。さらに、グループワーク、新入生研修等により、学生同士のつながりの強化を図ったが、途中、コロナによる休講、遠隔授業、イベントの中止などがあり、失速したのは否めない。
- ② 入学後早い段階から、資格取得を推奨し、奨励金制度の説明を行った。これにより、一部の学生の資格取得に対する意欲 は高まっており成果が出てきているといえる。さらに、資格取得にしっかり取り組んでいる学生は、就職活動にも早くから取り組めている傾向があり、就職支援という面でも成果が上がっていると思われる。

社会や地域に対して魅力ある公開講座開催計画について(テーマ・講師・日程等を 具体的に記載してください。なお、日程、講師等が未定の場合はどのようなテーマ で実施するのか具体的に記述してください。)	備	考
① 外部団体による寄付講座の実施		
令和3年度も引き続き福岡中部法人会当仁支部による「租税講座」と、福岡県司法書士会福岡西支部		
による「青少年法律講座」を実施する。		
② 起業体験者の話を聞く		
実際に起業した方を招き、地域・社会に貢献する手立てとしての起業について考える機会を設けたい。		

計画に対する実績および自己評価

- ① 令和3年度も福岡中部法人会唐人支部による「租税講座」を実施した。「税務セミナー〜コロナと社会保障〜」というタイトルで、税・社会保障に関して基礎的な事柄に関する有益な内容であった。
- ② 「起業体験者の話を聞く」については、コロナ禍であったこともあり、講師の依頼ができず実施できなかった。

進路(就職)支援実施計画(来年度いかに就職率や進学率を上げるか具体的に記載 してください。)	備	考
① 留学生に対する就職支援は、学生支援室、別科、国際交流・留学生支援室との連携を図って支援対策		
活動を進めていく。また、これまでと同様、「日本語能力試験」受験・合格指導を徹底強化し、日本語		
能力の向上を目指していく。		
② コロナ禍にあり本来の就活環境を期待できない現状にあっては、昨年にもまして、より手厚い就活支		
援や個別指導を行っていく必要がある。その際、特に、①日々変化する社会情勢を把握して学生にタ		
イムリーな就活情報を提供するとともに、②リモート就活のための具体的対応策を講じるなどを進め		
ていく。		

計画に対する実績および自己評価

- ① 留学生に対する就職支援に関しては、別科、学生支援室との連携を取り情報共有を行った。また、「日本語能力試験」1級、2級の取得を強く奨励し、就職活動に積極的に取り組むよう指導しその点で成果は上がっている。一方、世界的なコロナ流行の影響もあり、留学生の学費、生活費等の不足やそれに伴う就学意欲の低下もみられた。留学生が実際にどのような状態にあるのかを把握する必要性を感じた。
- ② リモート就活のための支援は学科教員により、必要に応じ実施された。その際、学内でのネット環境の充実が必要ではないかという意見が出された。また、学内での就職説明会の実施や企業紹介等も行い、11 月以降就職内定が取れていない学生に対する支援を学生支援室とともに行い、成果を上げることができた。

特別教育事業実施計画(教育GP等に向けた取組やプログラムの策定等について、 構想があれば具体的に記述してください。)	備	考
① 学修ポートフォリオの活用を強化し、2年間の学びを随時記録、PDCA サイクルで成長を確認できる仕		
組みを構築する。		
② これまでのキャリア演習での活用が主だった学修ポートフォリオを、キャリア演習だけでなく個別の		
学生の進路実現に向けたロードマップ確認のためのツールとして活用していく。		

計画に対する実績および自己評価

学習ポートフォリオの活用は、今年度も不十分であった。コロナ感染症拡大のなか、オンラインで課題を課し採点・返却することが増えたことも要因であった(これまでは印刷された課題を提出・採点していた)。今後は、教務システム「キャンパスマジック」の「学習ポートフォリオ機能」を活用し、学びの記録をオンライン化して共有していきたい。また、キャリア形成のために同システムの「キャリアポートフォリオ」「面談」機能も活用していきたい。

授業改善実施計画(前年度の反省を踏まえて具体的に記述してください。)	備	考
① 今年度は「学びのプログラム」を十分に確立できず、各教員が予習・復習や授業の受け方について個		
別に指導するにとどまったため、3年度は主に「プレップセミナー」において学ぶ意欲を刺激し、高		
等教育における基本的な学習方法を指導し、同時に「学びのプログラム」を完成させたい。		
② 「学科で身につけさせたい力」を確立し、各科目に反映させる仕組みを整える。具体的には、各科目		
の到達目標とCP およびDP との関連性を明確にする。また、各科目の小テストや課題も、学科で身に		
つけさせたい力を得られるものとなるようにする。		

計画に対する実績および自己評価

今年度は、経済・経営科目の専任教員を採用し、学科の基礎となる科目を全て専任教員が担当できるようになった。専任教員間でコミュニケーションをはかり、各教員が高等教育における基本的学習方法を一貫して指導することができた。ただし、より詳細な「学びのプログラム」を確立することはできなかった。

専任教員間では、基本的な「読む力」「書く力」を身につけさせたいという結論に至った。専門科目のテキストを読解する力、専門知識を踏まえて自分の意見を表現する力が不足していると感じたからである。次年度は、専任が担当する科目では、テキストを丁寧に読ませる機会を設け、また、適宜コメントペーパー(字数の下限を設ける)を課すことで、「読む力」と「書く力」の底上げを図りたい。

研究事業計画(学術研究振興補助や受託研究、科学研究費、共同研究等の計画)

事業計画名称		事	業	計	画	概	要	備	考
なし									
計画に対する実績および自己なし	<u> </u>								

社会活動計画

活動概要	備	考
① 起業家育成支援事業(中小企業庁)への参加	ı	
起業経験者の講演を聴講したり、ワークショップに参加したりするなど、ビジネスの基本である「人々	Ī	
のニーズに応える」ことについて学び、実践する機会を提供したい。	Ī	
②「西短マルシェ」の実施	Ī	
文化祭(福浜祭)において、模擬店(商品およびサービス)を企画し、利益を上げる経験を通じてビ	Ī	
ジネスを実践する機会を提供する。	Ī	
	l	

計画に対する実績および自己評価

① 起業家育成支援事業

本年度は、遠隔授業等で時間を確保できず当該事業に参加できなかった。

- ② 「西短マルシェ」の実施 コロナ感染症拡大のため、文化祭(福浜祭)がオンライン実施となり、模擬店等を実施できなかった。
- ③ 「草の根租税講座」の実施

本年度は、福岡中部法人会主催で「草の根租税講座」を実施した。「コロナ禍で変化したお金の事情」や「税金と給料の関係」など、学生にとっても関心の高い講演をしていただくことができた。

次年度も、ビジネスや法律に関わる内容について専門家を招き、学生に「学びと社会のつながり」を意識させていきたい。

令和3年度 緑地環境学科 事業報告

教育事業計画

令和3年度の当該学科の教育実施方針	備	考
自然との共生を図り、伝統的造園文化・技術を継承し快適な生活環境を創造できる人材の育成や社会情	İ	
勢の変化及び造園業界の要求に応えられる人材を育成するため、学生一人ひとりに対して、「職業及び全	İ	
人教育」をきめ細かく行う。	l	
令和2年度に引き続き、ウィズコロナの時代の中でインターネット・SNS も活用しながら学生の安全を	l	
確保しながら教育を進める。	İ	
また、豊富で多様な実習や演習をできた・終わったで完結することなく、学生自身が学習効果を振り返	l	
り、就職活動にも活用できる本学科独自のプロセス可視型のポートフォリオを充実させる。さらに、造園	İ	
業界と連携した研修をオンラインも含め年3回程度実施し、企業や社会が求める造園技術を修得させる。	İ	
最終的に2月に開催する学びの発表会ではゼミナールの発表のほかに、必修科目、実習演習科目などの成	İ	
果を発表し、高度な造園・ランドスケープ教育の質の担保を行う。	1	
	İ	

計画に対する実績および自己評価

- ・きめ細やかな「職業及び全人教育」については実施した。
- ・今年度はコロナ感染対策を充分に行い、安全を確保しながら対面で教育をすすめることができた。
- ・「造園業界と連携した研修」については、6月に緑の研修会 I、2月の学びの発表会を対面およびオンデマンドで開催した。 9月に計画していた緑の研修会 II は感染対策・安全対策の面から開催できなかった。
- ・「ポートフォリオの充実」については、ポートフォリオデザイン等の講義他、ゼミナールでのサポートを行う等充実させたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり授業間連携による制作が十分と言えなかった。
- ・2月に学びの発表会を行いゼミ発表と、授業などポスター発表を人数制限を行い実施し、高度な造園・ランドスケープ教育の質の担保を行った。

学生募集・広報につながる教育実施計画(低迷する入学者数を増やしていくためには、どうするのか具体的に記述してください。)	備	考
① 全国の卒業生へ、ゼミ・授業の学習成果、大学案内、学科紹介リーフレット等を送付し、現在の緑地		
環境学科を広報し、子弟、周囲の西短に興味を持つ高校生を紹介していただく。		
② オープンキャンパス参加者を取りこぼさないように、参加者全員に「学科創設 50 周年記念誌」を配布		
し緑地環境学科を広く・深く知ってもらうと同時に、安心して入学できるようにする。		
③ 農業系高校だけでなく普通高校からも入学しやすいように特待生制度を改正したので、普通高校へも		
積極的に訪問し学生募集を進める。		
④ 全国から学生を広く募るため、全国デザインコンクールや学会など高校生との接点もある大会や設計		
競技などで成果を出す。		
⑤ 県内、九州内、全国の高校、特に教員の専門性が活かせる農業・工業系の高校・学科での出前授業を		
積極的に行い、直接高校生に本学の教育について話せる場所を確保していく。		
⑥ 女性向けパンフレットを作成し広報しているが、昨年度より多くの女子高や普通高校へ訪問し広報す		
వ 。		
⑦ 学生各自が学習した成果をまとめたポートフォリオを作成して、高校訪問等の際に活用する。		
⑧ 高大連携や体験授業、進路ガイダンスなどで高校を訪れる際には、実施する高校を卒業した本学学生		
を同行し積極的に進める。		

計画に対する実績および自己評価

- ① 農業高校を中心に高校の先生へ、大学案内や学科紹介リーフレット、ゼミナールの活動等を送付し、現在の緑地環境学科の広報を行った。
- ② オープンキャンパス参加者全員に「学科創設 50 周年記念誌」を配布し緑地環境学科の歴史や取組を周知した。
- ③ 新型コロナウイルス感染拡大の影響もまだ根強く、普通高校へ十分な訪問や案内ができなかった。
- ④ 全国デザインコンクールでは入選・特別賞を受賞など大きく成果を出した。表彰式では遠隔であるが高校生・高校の教員 も含め参加し本学の情報も伝えることができた。
- ⑤ 新型コロナウイルス感染拡大のなか、 県外の高校で出前講義の数を充分に予定通り行うことができなかった。 数校では学校側の要望で訪問しての授業ができず、遠隔での対応になった。
- ⑥ コロナウイルス感染拡大の影響で、女子高への訪問は出来なかった。
- (7) 学生各自が学習した成果をまとめたポートフォリオを作成して、高校訪問等の際に活用した。
- ⑧ 新型コロナウイルス感染防止から、本学学生を同行しての募集活動はあまりできなかった。
- *以上のとおりで、新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり、計画通りにできないものも多く、十分成果が上がったとは言えない。普通高校、女子高校へのアプローチが十分ではなかったまた例年行っている関西・中部など九州外への広報活動が 充分に行えなかった。

生活指導、実習指導、資格取得等に係わる学生に対する教員のサポート・関わり方について具体的に記述してください。

備考

- ① 学生相談室を活用し、悩みを持った学生や発達障害、うつ病傾向の学生を把握しておく。教職員は情報を共有し、場合によっては保護者・本人・カウンセラーとの面談を定期的に行う。
- ② 本学内でFD 委員会が主催する勉強会「発達障害の傾向のある学生への対応について」に参加して、発達障害に関する理解を深める。
- ③ 欠席が多い学生や、単位を落としている学生には積極的に声を掛ける。改善されない場合、早い段階で保護者への連絡を行うなどして通学を促す。
- ④ 樹木鑑定能力を高めるために、二丈キャンパスでの実地研修、押し葉標本制作、年2回の鑑定試験、以上3項目を行い、一定レベルの鑑定能力をもたせる。
- ⑤ 施工管理技術検定2級(造園)の受検を奨励し、受験対策に重点を置いた特論(15回)を実施し学科 合格を目指す。
- ⑥ 技能検定2級3級(造園)の受検を奨励し、3級については本学主催の予備講習を行う。同課題に実習でも取り組み合格を目指す。
- ⑦ 製図ツールである CAD をコンピューター実習の授業に組み込み、別途外部から合格実績の高い講師を 招致して CAD 検定の対策講座を学内で開催し、全員が受検すると同時に合格率の向上につなげる。

計画に対する実績および自己評価

- ① 定例および臨時学科会議において学生情報の共有と担当教員へのアドバイスを行った。発達障害の疑いのある学生1名を学生相談室に紹介し、面談を行い、カウンセラーのアドバイスを得て対応した。
- ② 勉強会のテーマが「ハラスメントについて」に変更になったためパワハラ、セクハラ等の理解が進み、類似する学生からの相談に客観的に対応できた。
- ③ キャンパスマジックの導入により、欠席回数に応じた連絡がいくようになった。欠席がちな学生については、失格前に本人と面談し、欠席につながる事象について話し合い、解決の方向を探った。保護者とも相談し、家庭からも登校を促してもらった。しかしながら保護者と連絡が取れない事例もあり、その場合は文書にて就学状況を通知した。結果的に改善がみられた事例もあったが、進級につながらなかった学生が6名いた。
- ④ 樹木鑑定能力向上のため実習、年2回の鑑定試験を行った。
- ⑤ 施工管理技術検定2級(造園)の合格者を増やすため、造園施工管理演習として15回の授業を行った結果、施工管理技術検定2級(造園)では受験者数11名の合格率は63%、十木では受験者数16名の合格率は88%と好成績であった。
- ⑥ 技能検定 2 級 3 級 (造園) の受検を奨励し、3 級については本学主催の予備講習を実施した。受検生全体では 41 名中 32 名が合格し合格率は 78%であった。 2級の受検者数は 18 名で合格率は 83%、3級受験者数は 23 名で合格率は 74%であった。3級技能士の合格率が年々下がっていることは憂慮すべきで、特に学科試験の対策が必要。

⑦ CAD の合格率を上げるために事前対策講座を行った。受験者数は32名、7名が合格し合格率は22%であった。合格率は伸びているものの、対策講座を欠席する学生がおり授業時の実力を出しきれないケースが目立った。

社会や地域に対して魅力ある公開講座開催計画について(テーマ・講師・日程等を 具体的に記載してください。なお、日程、講師等が未定の場合はどのようなテーマ で実施するのか具体的に記述してください。)

備考

- ① 「環境ボランティア演習」の一環としての地元唐人町商店街・福浜小学校区における「エコ&緑の体験教室」(講師:本学教員および学生/植物リース作り教室12月:地域どんど焼き参画支援・正月伝統みどり体験1月)
- ② 世界で活躍する造園家・ランドスケープアーキテクトで客員教授内山貞文氏の公開講座を企画する。
- ③ 若年層の市民を対象とした探訪エコツアー「自然と人の共生を考える」(佐々木・山本)など「みどりの環境」に関する教育啓発活動を積極的に実施する。
- ④ 日本造園学会九州支部、日本造園建設業協会、ランドスケープコンサルタンツ協会、福岡市造園建設業協会、日本造園組合連会などと連携したより専門的な勉強会や講演会の企画を行う。
- ⑤ 4月、9月に企業、行政、大学と「造園・自然環境・園芸の仕事・職能」について考える「みどりの 研修会 I・II」を開催する。
- ⑥ 2月には学生のまとめの発表会である学びの発表会をオンラインも含め開催し、一般に公開する。
- ⑦ 放課後に造園・ランドスケープの専門家を招いた勉強会を学生と定期的に開催 (R3 年度は5回程度を予定) し公開する。

計画に対する実績および自己評価

- ① 福浜小学校区におけるエコ&緑の体験教室、地域どんど焼き参画支援・正月伝統みどり体験(1月)は中止。 当仁中学校のオリンピック記念庭園、唐人町商店街での七夕飾り、日本庭園平田邸の剪定、夢松原の会が主催する海の中 道松の間伐と国体道路での花壇整備、植物園でのワークショップを実施。
- ② コロナ禍のため調整ができず、開催していない。
- ③ コロナ禍により実施していない。
- ④ 学会九州支部、ランドスケープコンサルタンツ協会と協力し企画、実施した。
- ⑤ 新型コロナ感染症拡大防止措置の為、6月に I のみ実施した。
- ⑥ 新型コロナ感染症拡大防止措置の為、規模を縮小し一般公開はオンラインとして実施した。
- ⑦ コロナ禍のため遠隔4回実施し、対面では1回の勉強会を行った。

進路(就職) 支援実施計画(来年度いかに就職率や進学率を上げるか具体的に記載 してください。)

備 考

- ① 一年生では、「キャリアデザイン」(前期) や「ポートフォリオデザイン」(後期) で働くことの意味や職業に関する講義を行い、明確な目標設定とそれに向けた課題への挑戦を促す。ポートフォリオを作ることで、現状把握と不足しているものを認識し、自ら課題を見つける能力を身につけるとともに、就職活動、編入試験の際、プレゼンテーション資料として活用する、業界や同窓会など、外部の方に教育に参加してもらうことで、社会に即した教育を行っていく。
- ② 企業での実習やインターンシップ制度を活用し、学生に仕事内容への理解を進めるとともに、県が実施する林業関係の研修会に参加させ、学生と業界との結びつけを推進する。
- ③ 公務員希望の学生に対しては、公務員試験情報を収集し、各種試験対策を指導するとともにビジネス 法学科が開催する公務員講座を受講させる等支援する。
- ④ より社会人として、専門家としての素養や意識を高めるために、業界と連携した授業や取組を行う。
- ⑤ 業界関係者を取り込んだ研修会や会社説明会を開催する。令和3年度は4月に企業の仕事を紹介する 緑の研修会Ⅰ、9月には福岡市造園建設業協会・ランドスケープコンサルタンツ協会と共同で主催する緑の研修会Ⅱ(ただしオンラインを含む)、2月には学生の活動の報告を行う学びの発表会を開催し 進路の支援につなげる。

⑥ 自然環境デザインコース、ガーデンデザインコース独自の就職のために、森林分野や流通分野などを 新規開拓を行う。

計画に対する実績および自己評価

- ① 概ね学生たちは自らの目標設定を行い様々な課題に取り組むことができた。また、ポートフォリオも 1,2年生全員が取り組んだ。今年もコロナ禍の関係で外部の方を交えた機会を設定が充分でなかった。
- ② コロナ禍の関係で実習やインターンシップ制度を活用した仕事の理解を進めることはできなかった。
- ③ 公務員の合格者はなく、充分に学生への周知がはかれなかった。大学編入に関しては面接対策や夏季講習などビジネス法学科の講座を活用できた。
- ④ コロナ禍の関係で、一度中止を余儀なくされたが緑の研修会 I (企業説明会) 開催できた。業界を知り社会で活躍する職業人とふれあうことで就職が目の前のこととして捉えることができ意識高揚につなげることができた。
- ⑤ 緑の研修会 I では15 社の参加があり、就職に結びつけることができた。コロナ禍で緑の研修会 II は中止した。2 月には学びの発表会を開催し、外部の参加者を限定してお招きした。発表はどのゼミナールもしっかりとしたものでレベルが上がっているとお褒めの言葉をいただいた。
- ⑥ 自然環境デザインコースでは地元の調査系のコンサルタントに就職が決定した。ガーデンデザインコースでは福岡市で展開する花屋に就職ができた。学生のニーズに沿った進路を的確に把握するためにも森林分野流通分野の企業開拓を引き続き行う。

特別教育事業実施計画(教育GP等に向けた取組やプログラムの策定等について、 構想があれば具体的に記述してください。)	備	考
① 福岡市立こども病院、地元小学校私が担当する・幼稚園・福祉施設との連携を強化した「造園、園芸、環境教育、福祉」に連なる特別教育を実施する(出前授業など)。		
② 二丈キャンパスや地域社会での豊富で多様な実習・演習を、写真などを活用して、そのプロセスをま		
とめる「プロセス可視型ポートフォリオ」の作成を実施する。		

計画に対する実績および自己評価

- ① 新型コロナ感染症の感染拡大予防のため、出前授業等は行えなかったが、高齢者福祉施設と連携し、園芸福祉の知見を活かし、高齢者と学生や地域の人々との交流が可能な園芸福祉ガーデンを作庭した。 また、近隣の中学校と連携し、校庭に休憩スペースを作庭した。
- ② ①のプロセスや成果をポートフォリオにまとめ、学外に向けた発表をおこなった。

授業改善実施計画(前年度の反省を踏まえて具体的に記述してください。)	備	考
① 課題提出の時期や試験の時期が重なり学生に過度の負担がかかることから課題提出時期の分散化を図		
ప 。		
② 設計演習などの成果が就職活動などに活かせるよう演習内容の調整を行い、ポートフォリオ制作との		
連携を意識し、アウトプットを明確にした課題内容とする。		
③ 制作系の演習、ポートフォリオの制作に関して設計・コンピュータ・測量などの科目間の連携を構築		
し、連携した授業展開を行う。		

計画に対する実績および自己評価

- ① 1年生の課題については一部を春休みの宿題とし、休み明けの提出とした。
- ② 実習や演習の課題で制作については発表・講評を行うことにより内容を詰め、最終形の完成度を高めてポートフォリオに入れ、就職活動に活用した。
- ③ コンピュータ実習で CAD やグラフィックのアプリケーションを学習し、ゼミ、設計演習、ポートフォリオ作成との連携を行ったが充分とはいいがたい。

研究事業計画(学術研究振興補助や受託研究、科学研究費、共同研究等の計画)

	事業計画名称・事業計画概要	備	考
1. 海岸クロマツ林造成の	はかた夢松原の会と連携して、海岸クロマツ林の造成を目指して植栽技術の基礎研究を実施する。		
ための基礎的調査	本 曖叨九を夫他 9 る。		
2. 九州沖縄のランドスケ	九州沖縄のランドスケーブ遺産の現状の把握と、活用に関するとりまとめに		
ープ遺産に関取組する研	関して、日本造園学会九州支部ランドスケープ遺産グループと連携して共同		
究	研究を行う。		
3. 森林環境税により実施	放置された人工林を針広混交林化する為、福岡県と共同で、過去に、強度の		
された針広混交林化事業	間伐を実施した林分の現況調査を実施し、針広混交林化が進んでいるか検証		
の検証	する。		

計画に対する実績および自己評価

- 1. 福岡市西部水処理場臨海法面植栽クロマツ林の生長観察を行い、クロマツの防潮効果は確認された。
- 2. 現在製作した写真集を活用して九州各県でさらなる展開を進めている。
- 3. 新型コロナウイルス感染拡大に伴う行動制限等により福岡県との時間調整ができず、実施に至らなかった。

社会活動計画

活動概要	備 考
(一財) 日本造園修景協会評議員、(公財) 福岡市緑のまちづくり協会評議員、公園管理運営士会九州支部	1)
顧問、国営海の中道海浜公園魅力推進協議会委員(国交省)、国営海の中道海浜公園松林再生・保全検討委	
員(国交省)、上人ヶ浜公園再整備及び別府海浜砂場改修事業に伴う事業者選定委員会委員(別府市)、	
以上のような団体等の委員等として活動し、同団体等を支援し貢献する。	
国体道路の花壇修景プログラム/NPO法人はかた夢松原の会、国土交通省福岡国道事務所との取り組み	2
福岡市植物園での小学生への環境教育プログラム/まほろば自然学校との取り組み	3
一般社団法人まほろば自然学校監事	4
一人一花スプリングフェス(主催福岡市)への庭園・花壇の出展と高校造園系学科との協働での花壇出展/	5
福岡市、行橋高校・久留米筑水高校・福岡農業高校との協働(予定)	
オープンキャンパスへのデモンストレーションガーデン出展	6
ランドスケープコンサルタンツ協会九州支部若手勉強会への企画参加(学生含む)	7
福岡市都市景観賞審査委員会委員、大牟田市景観審議委員会委員、大牟田市景観アドバイザー、福津市景観	8
アドバイザー、福岡県技能検定委員、西公園再整備検討委員会委員、佐賀県立佐賀城公園および佐賀県立森	
林公園指定管理者候補者選定委員会委員長など	
二丈キャンパスを活用し、社団法人福岡市造園建設業協会、ランドスケープコンサルタンツ協会九州支部、	9
福岡市と西短の学生及び教員での研修会を昨年度に続き開催する	
福岡市植物園内モデルガーデンの制作管理など福岡市の緑化政策・推進担当セクションとの連携	10
全国都市緑化くまもとフェア福岡市出展庭園の監修と制作指導	(1)
日本造園学会作品選集選考委員	12
特定非営利活動法人グリーンシティ福岡の理事として、市街地内の緑化や緑地・庭園の保全・活用に関する	13
アドバイスを行う。	
樹木医としての活動を通して緑地の保全に貢献し、後続の人材を育成する。	14)
大濠・西公園管理事務所(指定管理者)と連携し、公園内の樹木安全点検を学生の指導をしながら行う。	

(公財) 福岡市緑のまちづくり協会主催「花とみどりのまちづくり賞」審査委員	15
(一社) 日本造園学会九州支部運営委員	16
(一社) 日本造園学会九州支部会計担当委員	(17)
国立障害者リハビリテーションセンター自立支援局福岡視力障害センター庭園再整備委員長	(18)
福岡市都市緑化推進行事実行委員会委員	19
計画に対する実績および自己評価	
① すべて実施し支援した。	
② NPO、国土交通省、地元住民と協働した。新型コロナ対策もあり、回数を増やし分散して行った。	
③ 新型コロナ感染症対策もあり、1回のみしか開催できなかった。	
④ 連携して行った。	
⑤ 花壇庭園の出展を行い行橋高校、筑水高校と協働で制作を行い、多くの方からの反響と、福岡市長から	
感謝状を授与された。	
⑥ 中庭に制作を行い、全国造園デザインコンクールで日本造園建設様協会会長賞を受賞した。	
⑦ 学生も意欲的に参加した。	
⑧ すべて実施した。	
⑨ 新型コロナ感染症拡大防止のため中止した。	
⑩ 実施した。	
⑪ 令和4年3月から開催された第38回全国都市緑化フェア「くまもと花博」も学生を中心に制作した。	
⑫実施した。	
⑬ 非営利活動法人グリーンシティ福岡の理事として、活動内容の紹介、参加者募集を学内で行った。	
⑭ 樹木医活動として大濠公園・西公園の樹木安全点検を学生と行い(5年目)新規点検本数90本、継続点	
検本数136 本、5年間の延べ点検本数は935 本を数えた。	
⑤(公財)福岡市緑のまちづくり協会主催「花とみどりのまちづくり賞」令和3年度審査委員長を務めた。	
⑥ 11月の学会熊本大会を他大学・業界・行政・地元高校と連携して開催運営するなど実施した。	
⑪ 担当教員が年度途中で退職したため、充分に実施できなかった。	
18 担当教員が年度途中で退職したため、充分に実施できなかった。	
① 11 月に開催された福岡市の一人一花サミットの運営などに務めた。	

令和3年度 社会福祉学科 事業報告

教育事業計画

令和3年度の当該学科の教育実施方針

社会福祉学科では、「心と体のケアのスペシャリスト」に重点を置いた介護福祉教育を実施している。介護福祉士として深い人間理解ができ、人間の尊厳や個人の人格を重視し他人を思いやる豊かな人間性を持ち、実践が能力を身につけた介護福祉士を養成する。また、介護福祉に関する専門的な知識・技術を習得させ、「求められる介護福祉像」を目指してその理念と社会的意義を理解できる力を持つリーダーとしての人材を養成する方針である。

また、社会福祉学科は留学生の養成にも6年前から力を入れており、地域の施設や病院等にも多くの留学生人材を輩出しているが、介護人材としてだけでなく留学生のリーダー的役割を担うことができている。本学科は日本人、留学生を問わず、スキルの高い教育方法でプロフェッショナルな介護福祉士の育成に尽力していく方針である。

計画に対する実績および自己評価

社会福祉学科では、「心と体のケアのスペシャリスト」に重点を置いた介護福祉教育のために癒しのケアとアクティビティ プログラムの授業を選択科目に入れている。介護福祉士として深い人間理解ができ、人間の尊厳や個人の人格を重視し他人を 思いやる豊かな人間性を持ち、実践的能力を身につけた介護福祉士を養成する教育に非常に効果的な効果を上げている。ま た、介護福祉に関する専門的な知識・技術を習得させ、「求められる介護福祉像」を目指して介護の基本 I の科目でこの理念 について理解しやすいように授業の中で具体的に説明を行っている。その理念と社会的意義を理解できる力を持つリーダー としての人材を養成する効果は十分である。

また、社会福祉学科は留学生の養成にも7年前から力を入れており、地域の施設や病院等にも多くの留学生人材を輩出しているが、介護人材としてだけでなく留学生のリーダー的役割を担うことができている。本学科は日本人、留学生を問わず、スキルの高い教育方法でプロフェッショナルな介護福祉士の育成に尽力し地域に良質な人材を提供できている。各施設からの評価は非常に高い。

学生募集・広報につながる教育実施計画(低迷する入学者数を増やしていくためには、どうするのか具体的に記述してください。)

募集対策としては、基本的には高校訪問(担任の先生)、オープンキャンパスの充実、チラシ作成と配布による参加者の増加促進、高大連携活動や模擬授業、進路ガイダンスへの参加、出前授業、福祉体験講座等の実践教育の実施、高校、介護施設や日本語学校と連携し募集活動に力を入れる方針である。留学生については福岡市内と周辺地区の日本語学校や専門学校、国外からの留学生など優秀な学生確保へ向けての募集活動を拡大していく方針である。

また、ノーリフトケアに向けて介護ロボットなどの講義を積極的に導入する。日本人学生の獲得のため、将来の職業選択肢を広げることのできる医師事務補助者の資格獲得を可能にする。

計画に対する実績および自己評価

募集対策としては、基本的には高校訪問(担任の先生)、オープンキャンパスの充実、チラシ作成と配布による参加者の増加促進、高大連携活動や模擬授業、進路ガイダンスへの参加、出前授業、福祉体験講座等の実践教育の実施、高校、介護施設や日本語学校と連携し募集活動に力を入れている。留学生については福岡市内と周辺地区の日本語学校や専門学校、国外からの留学生など優秀な学生確保へ向けての募集活動を拡大している。しかし日本人の応募者は年々減少しさらなる募集対策が必要である。訪問する際の在校生や卒業生の情報を映像や写真などで収集し、一人ひとり丁寧に教育や支援を行っているというアピールをすることで、増員したいと考える。

また昨年より将来の職業選択肢を広げることのできる医師事務補助者の資格獲得を可能にしたが、日本人学生から次第に人気が出ている。他学科からも取得希望者が出ており、学科を超えて資格取得できるように考えている。また、留学生については国内留学生の減少に対し、国外留学生の募集に力を入れる予定である。

生活指導、実習指導、資格取得等に係わる学生に対する教員のサポート・関わり方について具体的に記述してください。

1. 生活指導:

各学年少人数グループを教員1名が受け持つ担任制とし、総合演習を活用して個別面談を行うなど、日頃の生活指導にあたる。また学科教員間で報告・連絡・相談を密にして、教員個人で問題を抱え込まないよう、科内会議等で指導方針を検討する。特にメンタル面で課題を抱える学生に対しては、スクールカウンセラーによる学生相談室も活用する。また、留学生の抱える生活問題に対して相談に応じ対処法を検討することで、学習継続ができる対応を行う。

2. 実習指導:

実習指導室を中心として実習に関する準備・指導・事務手続きを実施する体制をとっている。各段階の実習指導が効率よく運ぶために、チームティーチング方式を取り入れ学生1人1人に対応した指導を実施する。実習巡回へは全教員が担当し、実習段階毎の到達目標や内容・記録方法等について共通認識をもてるようにする。実習に課題を抱える学生について、実習会議で情報を共有し、学科内での統一した指導方針を検討する。

1年1回開催の実習指導者を招く情報交換会では、施設同士の交流と本学科との連携構築を目指す。また、介護過程発表会では、学生の実習の成果を実習指導者等に観ていただき、学科の教育内容や学生の状況に関する理解を求め連携・協力体制の強化を図る。また、留学生の支援施設とは学習状況や制度の情報を共有する。

3. 学習指導・資格取得:

国家試験対策については、課外授業の強化など充実を図る予定である。留学生に関しては介護の基礎Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの科目を、日本語教育のプロを非常勤講師として招き、国家試験対策を行う予定である。

本学科では平成25年度入学生より、介護福祉士ルートと卒業ルート(介護福祉士を取得しないルート)の2つのルートにカリキュラムを編成しているが、どちらを選択しても障害者スポーツ指導者、全国手話検定を積極的に取得するよう 奨励する。合和3年度より医師事務補助者の資格取得を可能にする予定である。

計画に対する実績および自己評価

1. 生活指導:

各学年少人数グループを教員1名が受け持つ担任制とし、総合演習を活用して個別面談を行うなど、日頃の生活指導にあたることで丁寧な指導ができている。問題を事前に防ぐ効果もできている。また学科教員間で報告・連絡・相談を密にして、教員個人で問題を抱え込まないよう、科内会議等で指導方針を検討することで情報共有し担任以外の教員でも学生に対応できている。学生によってはスクールカウンセラーによる学生相談室も活用する。また、留学生の抱える生活問題に対して相談に応じ対処法を検討することで、学習継続ができる対応を行うことができ学習意欲が向上し国家試験合格者の人数も増やすことができた。

2. 実習指導:

実習指導室を中心として実習に関する準備・指導・事務手続きを実施する体制をとっていることで学生は実習に関する質問や書類提出などが随時行えることでスムーズな実習が行えている。また各段階の実習指導はチームティーチング方式を取り入れ学生1人1人に対応した指導を実施し個別な指導が充実している。実習巡回へは全教員が担当し、実習段階毎の到達目標や内容・記録方法等について共通認識をもてるようにすることで、担当以外の「学生情報を共有でき、指導がどの教員でもできるため合理的な指導となっている。

1年1回開催の実習指導者を招く情報交換会では、施設同士の交流と本学科との連携構築を目指すだけでなく実習施設との意見交換にも役に立っている。介護過程発表会では、学生の実習の成果を実習指導者等に観ていただくことで、実習の成果と学生の成長を確認していただき再度実習の意義を感じていただけている。さらには留学生のサポート施設は留学生の2年間の成長確認と就職後の展望を抱くことにも効果があっている。

3. 学習指導・資格取得:

国家試験対策については、課外授業の強化など充実などにより合格者増加できている。留学生に関しては介護の基礎 I・Ⅲ・Ⅲの科目を、日本語教育のプロを非常勤講師として招き、国家試験対策を行っており、令和3年度は10名の合格者をだすことができた。

本学科では平成25年度入学生より、介護福祉士ルートと卒業ルート(介護福祉士を取得しないルート)の2つのルートにカリキュラムを編成しているが、どちらを選択しても障害者スポーツ指導者、全国手話検定を積極的に取得希望者は増加している。また令和3年度より医師事務補助者の資格取得を可能となったため受講者は学科を超えて増加している。就職の幅を広がっている。

社会や地域に対して魅力ある公開講座開催計画について(テーマ・講師・日程等を具体的に記載してください。なお、日程、講師等が未定の場合はどのようなテーマで実施するのか具体的に記述してください。)

①認知症サポーター養成講座(11月)、②福岡県介護の日イベント(11月)、③手話講座(毎月第三月曜日)、④福祉レクリエーション(毎月第三火曜日)、⑤アロマセラピー体験(オープンキャンパスにて)の地域公開講座を開催する。⑥福浜団地住民に対し、アロマセラピーやセラピーメイク、絵本読み聞かせのボランティア講座開設予定。⑦福浜校区ふれあいネットワーク研修参加、⑧ご近所応援団定例会・地域福祉活動参加。

①②は千代パピョンホール、③プロミス天神貸しホール、④特別養護老人ホームはなみずき園、⑤本学、⑥は日程調整、⑦中央区社協より依頼を受けた日程で随時参加、⑧毎月第一火曜日。

計画に対する実績および自己評価

以下については、コロナ感染拡大防止のための実施ができなかった。

① 認知症サポーター養成講座 (11月)、②福岡県介護の日イベント (11月)、③手話講座 (毎月第三月曜日)、④福祉レクリエーション (毎月第三火曜日)、⑤アロマセラピー体験 (オープンキャンパスにて) の地域公開講座を開催する。⑥福浜団地住民に対し、アロマセラピーやセラピーメイク、絵本読み聞かせのボランティア講座開設予。⑦福浜校区ふれあいネットワーク研修参加、⑧ご近所応援団定例会・地域福祉活動参加。

進路(就職)支援実施計画(来年度いかに就職率や進学率を上げるか具体的に記載してください。)

1学年では、就職模擬試験、適性検査の実施、2学年では、①進路ガイダンス、②進路希望調査、③担任の個別面談、④ハローワークによる模擬面接指導、⑤卒業生座談会、⑥福祉施設人事担当者による就職ガイダンス、⑦介護過程報告会公開、⑧福祉施設との情報交換会、⑨編入対策講座、⑩就職内定者向けセミナーを実施する。また、⑪福岡県及び福岡市主催福祉の仕事説明会の引率参加。⑫留学生のアルバイト・奨学生・就職斡旋、⑬発達障害の学生の就労支援。福岡市障害者就労支援センターとの連携。就職先との信頼関係を築き、人間力と技能を備えた学生を育成し就職・進学につなげ、卒業後も就職先及び卒業生宛てにアンケートを行い追跡調査・アフターケアを行う。

1学年では、就職模擬試験、適性検査の実施、2学年では、①進路ガイダンス、②進路希望調査、③担任の個別面談、④ハローワークによる模擬面接指導、⑤卒業生座談会、⑥福祉施設人事担当者による就職ガイダンス、⑦介護過程報告会公開、⑧福祉施設との情報交換会、⑨編入対策講座、⑩就職内定者向けセミナーを実施できており就職進路に関してはほぼ100%である。また、⑪福岡県及び福岡市主催福祉の仕事説明会の引率参加できている。⑫留学生のアルバイト・奨学生・就職斡旋は毎年一定の人数確保しており、就職先との信頼関係を築き、人間力と技能を備えた学生を育成し就職・進学につなげ、卒業後も就職先及び卒業生宛てにアンケートを行い追跡調査・アフターケアや苦情処理にも応じており、一層施設より信頼をいただいている。

特別教育事業実施計画(教育GP等に向けた取組やプログラムの策定等について、構想があれば具体的に記述してください。)

1. コミュニケーション能力向上のための教育プログラム

本学科では、介護福祉士としての専門性向上において、コミュニケーション力向上は重要なプログラムであると考えている。コミュニケーション科目の中でのロールプレイだけでなく、当事者とのコミュニケーション体験は貴重な体験と考え、コミュニケーションの授業のゲストとして言語障害当事者や聴覚障害当事者を招き学生にコミュニケーションの取り方の実際として定例化している。また、実習開始前にオンラインによる実習施設とのやり取り、ボランティア参加や介護実践専門家による講義などで具体的イメージを学習する。

2. 記述力向上プログラム

介護過程では、高度な文章力や理解力、分析力が要求される。文章力については個人差が大きく、個別指導が難しい部分 だが、個別指導に重点を置き指導する。記録物の内容を見直し、留学生にも対応しやすい様式に変更する。また介護過程の アセスメント部分の指導内容を簡素化していく。

3. 障害者介護教育プログラム

本学科は、障害児・者から高齢者まで幅広く支援ができる介護福祉士の育成をめざしていることが大きな特徴である。 これまで、夏休みの自閉症療育キャンプの参加、地域の特別支援学校及び特別支援学級への訪問支援活動等を取り入れ、 介護実習施設先にも障害児・者施設の開拓は継続している。

また、平成27年より介護の基本IVにおいて障害者の介護過程の展開を開始したが、新年度では指導教員を増やし、個別

指導を行う。

4. 国家試験対策教育プログラム

介護福祉士国家試験開始となるため、合格 100%をめざした教育プログラムを確立する。具体的には、専任教員は出題傾向を把握し、ミニテストの実施等日頃の授業の中で学生が習得できる方法を工夫する。学期末試験問題には、国家試験に対応した内容を取り入れ、評価基準の筆記試験割合を 80%に引き上げ評価を厳格化し、科目終了時点での基礎的な知識の習得を向上させる。2 年後期には、専任教員全員の分担で国家試験特講を開設し、出題範囲の総復習と模擬問題をドリルし解説する。全国模擬試験を 2 回、学内模擬試験も追加実施し、後期の総合演習で学生への個別面談を定期的に実施し、合格に向けてサポートしていく。留学生に関しては、日本人とは別のクラス分けを行い日本語力に応じた指導を行う。

5. 四年制大学編入対策講座

毎年数名の編入希望者があり対策講座はすでに実施しているが、論文力や面接力向上のために、進路と連携し強化する。

計画に対する実績および自己評価

1. コミュニケーション能力向上のための教育プログラム

コミュニケーション科目の中でのロールプレイだけでなく、当事者とのコミュニケーション体験は貴重な体験と考え、コミュニケーションの授業のゲストとして言語障害当事者や聴覚障害当事者を招き学生にコミュニケーションの取り方の実際として定例化しているためコミュニケーション力は実習施設や就職先でも高評価である。また、実習開始前にオンラインによる実習施設とのやり取り、ボランティア参加や介護実践専門家による講義などで具体的イメージを学習しているために応用力が身につき、幅広いコミュニケーションが行える効果がでている。

2. 記述力向上プログラム

介護過程や実習日誌指導では、個別指導に重点を置き指導する。記録物の内容を見直し、留学生にも対応しやすい様式 に変更しているため留学生でも介護過程発表会で堂々と発表できるようになっている。

3. 障害者介護教育プログラム

夏休みの自閉症療育キャンプの参加、地域の特別支援学校及び特別支援学級への訪問支援活動等を取り入れ、介護実習施設先にも障害児・者施設の協力を得られている。

また、介護の基本IVにおいて障害者の介護過程の展開を開始したが、新年度では指導教員を増やし、個別指導を行うことで障がい者理解は深まっている。

4. 国家試験対策教育プログラム

専任教員は出題傾向を把握し、ミニテストの実施等日頃の授業の中で学生が習得できる方法を工夫し留学生の合格率は向上することができた。各授業や学期末試験問題には、国家試験に対応した内容を取り入れ、2年後期には、専任教員全員の分担で国家試験特講を開設し、出題範囲の総復習と模擬問題をドリルし解説しており国家試験対策は充実している。全国模擬試験を2回、学内模擬試験も追加実施し、学生の学力の経過を確認できている。

5. 四年制大学編入対策講座

毎年数名の編入希望者があり対策講座はすでに実施しているが、論文力や面接力向上のために、編入対策講座にて対応 し毎年推薦にて合格者を出している。

授業改善実施計画(前年度の反省を踏まえて具体的に記述してください。)

授業改善については、授業公開実施と授業改善アンケート結果を踏まえ、各教員が担当科目別の学習成果を評価し、到達目標の振り返りを行い改善策を検討する。また、科目の節目ごとに学生のアンケートを取り、その後の授業改善につながるよう工夫していく。

専任教員、非常勤講師が担当する科目の授業目標と内容・評価基準について検討・調整を行うため、学科内でシラバス検討 会議を行い、学習内容が効果的になるよう各科目間で調整を図り、学科としての最終到達目標が達成できるよう検討改善す る。

また留学生への指導方針は、ルビをふる以外に各授業のポイント部分を強化し、より分かりやすい動画や映像、絵や図などを増やし、理解しやすい内容に変更する。

非常勤講師会において、学科の指導方針や2年生の学習状況、新1年生の状況、留学生の状況を報告することで、広く非常 勤講師の意見を反映できるよう心掛け、学生への対応を共通認識するために学科内での学習目標の意思統一をはかる。

計画に対する実績および自己評価

授業改善については、授業公開実施と授業改善アンケート結果を踏まえ、各教員が担当科目別の学習成果を評価し、到達目標の振り返りを行い改善策の検討をし、学生の直接の声も把握しながら、授業改善につながるよう工夫することでより理解しやすい授業にすることができている。

専任教員、非常勤講師が担当する科目の授業目標と内容・評価基準について検討・調整を行うため、学科内でシラバス検討 会議による各授業が充実した内容となり、各科目の到達目標への到達度が上がっている。

また留学生への指導方針は、ルビをふる以外に各授業のポイント部分を強化し、より分かりやすい動画や映像、絵や図などを増やし、理解しやすい内容に変更することで学生から分かりやすくなったと高評価を得ている。

また非常勤講師会において、学科の指導方針や2年生の学習状況、新1年生の状況、留学生の状況を報告することで、広く非常勤講師の意見を反映できるよう心掛け、学生への対応を共通認識するために学科内での学習目標の意思統一を図ることができている。

研究事業計画(学術研究振興補助や受託研究、科学研究費、共同研究等の計画)

事業計画名称	事業計画概要	備 考
自閉症の適応能力開発及	自閉症療育キャンプを実施し、地域に在住する自閉症児に対して 2 泊 3	一山 中野
び学生教育に関する研究	日の宿泊を通じて生活指導・学習訓練・野外活動等の働きかけを行い、心身	川井 折居
	の発達を促進させる。自閉症児に対するそれらの働きかけの効果と、学生	田邊 山本
	の障害児者介護教育への効果を検証する。	古賀
福祉職を目指す学生への	心理劇における役割演技(ロール・プレイング)を体験することによっ	一山 中野
心理劇を用いた学習方法	て、学生の利用者理解力を高め、さらに対人関係能力や援助スキルを向上	川井 折居
の評価	させることを目的とする。そこで、心理劇(集団心理療法)を用いた演習授	田邊 山本
	業を行い、学生への学習効果を検証する。	古賀
学生サポーター活動によ	本学近隣にある特別支援学校や特別支援学級において障害児訪問支援の	中野 一山
る障害児介護教育	ための学生サポーター活動を学外授業、地域交流教育として行う。	川井 折居
	本学が平成21年度から協定した福岡市教育委員会主催・学生サポーター	田邊 山本
	制度について全学的な取り組みや学科の取り組みを報告し、地域包括教育	古賀
	の意義と学生への教育効果を検証する。	
発達障害児への療育支援	発達障害児に対する療育支援を通じて、言語能力、認知能力、対人関係能	中野 一山
に関する研究	力等社会適応能力の促進過程について報告し、課題学習訓練等の療育の効	川井 折居
	果的要因や各々の子どもに合った適正就学指導のあり方について検証す	田邊 山本
	る。	古賀
実習記録の指導方法につ	学生が実習日誌の書き方に自信がない現状がある。留学生を含めた文章	中野 一山
いての研究	力の向上のため、実習日誌の内容や指導法の簡素化、プロセスレコードの	川井 折居
	廃止、介護過程の様式と指導内容の簡素化を行い、留学生にも書きやすい	田邊 山本
	様式に変更している。	古賀
「介護福祉士国家試験」受	国家試験を受験する学生への指導方法や試験評価やそれらの課題等につ	中野 一山
験のための学習方法につ	いて研究する。留学生の学習方法では、日本語力強化と同時進行でくり返	川井 折居
いて	し学習できる内容へ変更する。日本人については出題頻度順の指導をおこ	田邊 山本
	なう。	古賀
介護過程の指導方法	介護過程では、文章力だけでなく分析力が要求されるが、介護過程のア	中野 一山
	セスメント部分の様式と指導方法の変更が必要である。特に留学生は推測	川井 折居
	という考え方を苦手としているために、推測し表現することが困難なもの	田邊 山本
	に対して、感想などに置き換えるなどの変更を行う。	古賀
オンラインによる講義や	令和2年はオンラインによる講義、実習を行う機会が多かった。試行錯	中野 一山
実習指導の方法	誤の中でも、学生の対して効果的な講義や、オンラインによる実習が行え	川井 折居

ないかと検討し、実施をすることができた。しかし多くの課題が残り、今後	田邊 山本
オンラインを活用した講義や実習を行う方法の構築を行った。	古賀

計画に対する実績および自己評価

1. 自閉症の適応能力開発及び学生教育に関する研究 コロナ感染拡大防止により自閉症療育キャンプを実施できていない。研究は継続する。

2. 福祉職を目指す学生への心理劇を用いた学習方法の評価

授業の中で心理劇における役割演技 (ロール・プレイング) を体験することによって、学生の利用者理解力を高め、さらに対人関係能力や援助スキルを向上させることを目的とし学習効果を検証している。

3. 学生サポーター活動による障害児介護教育

本学近隣にある特別支援学校や特別支援学級において障害児訪問支援のための学生サポーター活動はコロナ感染拡大の影響によりできていない。研究は継続する。

4. 発達障害児への療育支援に関する研究

発達障害児に対する療育支援を通じて、言語能力、認知能力、対人関係能力等社会適応能力の促進過程について報告し、課題学習訓練等の療育の効果的要因や各々の子どもに合った適正就学指導のあり方について検証を継続して行っている。

5. 実習記録の指導方法についての研究

実習日誌の内容、情報収集、アセスメントの指導には実習巡回教員が個別指導を行っている。留学生にも書きや水曜式変更の効果を検証した。

6. 「介護福祉士国家試験」受験のための学習方法について

国家試験を受験する学生への指導方法や試験評価やそれらの課題等について研究しており、指導効果は出ておりアンケート調査を実施した。令和3年度合格者は確実に増加した。

7. オンラインによる講義や実習指導の方法

令和2年3年とオンラインによる実習が多く、効果的なオンライン実習の結果を導きだし考察を行った。介護福祉教育学会や総合論文集への掲載ができている。

社会活動計画

活動概要	備	考
1. 自閉症療育キャンプ運営委員		
福岡精神発達障害療育研究所主催による自閉症療育キャンプが、毎年夏季に開催されており、社会福	中野	一山
祉学科・ビジネス法学科・保育学科の参加希望学生を引率指導し、教員と学生が療育担当スタッフとし	川井	折居
て参加する。	田邊	山本
2. 篠栗町障害児通園事業・個別療育担当	古賀	
篠栗町の障害児通園事業において、障害がある、または障害の疑いのある幼児・児童の個別療育及び		
保護者支援を行う。		
3. 日本福祉心理学会運営委員		
障害児者、児童、保育、教育、高齢者介護等における福祉の臨床や制度、人間の尊厳や人間科学に関		
わる福祉心理学の研究会開催や研究活動を行う。		
4. 西日本心理劇学会運営委員		
発達障害児者、精神障害者、認知症高齢者、児童等要援護者への適用、支援者の教育訓練に関する実		
践研究、ワークショップや研究会開催を行う。		
5. 福岡発達障害つなぐ会会員		
専門医療機関や就労移行支援事業所、高校、大学等が発達障害者の就労を促進する目的で連携を目指		
した研究会である。		
6. 九州生活福祉支援研究会会員		
発達障害の療育実践及び研究に関する研究会開催や研究活動に参加協力している。		
7. 九州生活福祉支援研究会運営委員		
発達障害の療育実践及び研究に関する研究会開催や研究活動を主となって行なっている。		

8. 大分大学との共同研究

介護ロボットの研究において、本学科教員と学生がデータ収集のための協力し、意見交換を行うことで、実用性の高い介護ロボット作成に協力する。

計画に対する実績および自己評価

1. 自閉症療育キャンプ運営委員

福岡精神発達障害療育研究所主催による自閉症療育キャンプはコロナ感染拡大防止に伴い実施参加ができなかった。

2. 篠栗町障害児通園事業・個別療育担当

篠栗町の障害児通園事業において、障害がある、または障害の疑いのある幼児・児童の個別療育及び保護者支援は継続的に参加できている。

3. 日本福祉心理学会運営委員

障害児者、児童、保育、教育、高齢者介護等における福祉の臨床や制度、人間の尊厳や人間科学に関わる福祉心理学の研究会開催や研究活動を行っている。

4. 西日本心理劇学会運営委員

発達で書見者、精神で書者、認知症高齢者、児童等要援護者への適用、支援者の教育訓練に関する実践研究、ワークショップや研究会開催を継続して行っている。

5. 福岡発達障害つなぐ会会員

会員ではあるが活動は現在行っていない。

6. 九州生活福祉支援研究会会員

発達障害の療育実践及び研究に関する研究会開催や研究活動に参加協力は現在のところ行っていない。

7. 九州生活福祉支援研究会運営委員

発達障害の療育実践及び研究に関する研究会開催や研究活動は委員として行なっている。

8. 大分大学との共同研究

介護ロボットの研究において、本学科教員と学生がデータ収集のための協力し、意見交換を行うことで、実用性の高い介護ロボット作成に協力し論文は完成した。

令和3年度 保育学科 事業報告

教育事業計画

令和3年度の当該学科の教育実施方針	備	考
保育者の資質を育むための「表現力・人間力・専門的知力」をバランス良く育むことを重視する。社会	1	
的テーマを見据えて、高い人権意識と多様性の尊重、ジェンダーバイアスのない視点の醸成、学生の主体		
的で能動的な表現と活動の促進、感染症対策のための生活指導等を行っていく。1年次の総合演習授業に		
おいて、毎回 15~30 分程度の連続性あるマナー講習を行い、ボランティア活動として、外部の福祉施設		
における活動の他、自身の生活環境整備と地域貢献のために、学内外の清掃・整備、教室等の壁面装飾を		
行う。	r .	

計画に対する実績および自己評価

新入生オリエンテーションにおいて、建学の精神に基づいた「三つの心」「三つの力」についての教育方針を示した。人権 意識と多様性尊重、ジェンダー・センシティビティに関する意識向上は、関連科目の授業内で取りあげ、主体的学びができる ようワークショップ形式も取り入れて学習を促進した。マナー教育は継続的に実施でき、実習先施設等からの評価においては 効果が出ていることがうかがえた。感染対策で外部ボランティアは中止となったが、学内と地域の清掃や環境整備の活動は継 続して行え、学生の創造的活動の一つとなった。

学生募集・広報につながる教育実施計画(低迷する入学者数を増やしていくために	備	考
は、どうするのか具体的に記述してください。)	7/HI	47
「西短の保育学科でなければ学べないこと」を明確に PR する。ピアノブースやレッスン設備の充実、		
茶道文化や保育園芸の授業に加え、社会問題についての考察やワークショップによる教育についても、視		
覚的情報にしてオープンキャンパスやホームページ、パンフレット等によって伝える。取得可能資格が多		
い点についても他学との差別化を意識する。学科のブログでは、行事や特別活動に加え、学生の視点でと		
らえたリアリティある保育の学びの楽しさを伝えるために、各授業やゼミ活動における学びの成果につい		
ても可視化して伝える。		

計画に対する実績および自己評価

独自科目が資格取得の必修ではないため、履修することにより就職後の保育力・教育力につながる点を強調して開講している。現代的問題を扱う専門科目についても、アクティブ・ラーニングの方法により内容をさらに充実させたことで、学生からの評価も高かった。これらの情報を、ブログやインスタグラムを通じた記事や写真の形でコンスタントに公開している。

生活指導、実習指導、資格取得等に係わる学生に対する教員のサポート・関わり方	備	考
について具体的に記述してください。	7月	5
昨年度は、学生間で SNS を介した重大な加害被害事案が生じたため、これまでより一層丁寧に、SNS 使		
用に関する倫理面の教育を早期から行う。総合演習は全専任教員の毎回参加で、クラスごとにきめ細かい		
配慮や指導を行う体制を継続する。個別対応の必要な学生が増加しているため、教員間で協議しながら、		
本人が適応し成長につながる支援ができるよう配慮する。実習指導では、総合マニュアルを完成させ、明		
確な基準のもと合理的な指導を行う。実習時の頭髪について、昨年度より地毛尊重の基準に切り替えたた		
め、不公平感が生じないよう、より全体への指導では留意して教示等行うようにする。		

計画に対する実績および自己評価

1年生については、毎週の総合演習での全専任教員による見守りと指導の体制が定着し、大学生活、修学についてのみならず、個人的な面でも悩みや問題が小さい段階で、声掛けや相談への導入ができているといえる。2年生は、ゼミ担当教員による指導を中心とするが、教員による偏りのないよう、進路等各委員の教員が複線的に関わり、タイミングよく適切なサポートができるようになっている。実習指導においては、学生にとってわかりやすい手引き書が完成し、授業に導入した。

社会や地域に対して魅力ある公開講座開催計画について(テーマ・講師・日程等を 具体的に記載してください。なお、日程、講師等が未定の場合はどのようなテーマ 備 考 で実施するのか具体的に記述してください。) 昨年度は感染症流行のため中止になったが、例年開催している福浜祭におけるコーナー保育や芋掘り企 画として、地域の親子等が参加し楽しんでもらえる機会をつくり、学科の活動を紹介する。昨年度はWEB 祭でも実施した「オレンジ・パープルリボン運動」は、子ども虐待と女性への暴力根絶のための重要な社 会活動である。学生主体で保育学生らしいオリジナリティある制作物やPR方法を展開しているため、継 続して実施し、広く社会に発信できる工夫もしていく。ゼミ活動を学外向けの場において発表する企画 も、感染症の問題が終息した時期には実現できるよう計画する。

計画に対する実績および自己評価

新型コロナ感染状況が続いたため、福浜祭においては WEB のツールにより、昨年同様に学生による壁面装飾の作品発表と「オレンジ&パープルリボン運動」の活動を紹介した。地域市民が参加できる形の企画は困難であったが、音楽ゼミによるミニコンサートを開催するなど、小規模の学内イベントは継続できた。

進路(就職)支援実施計画(来年度いかに就職率や進学率を上げるか具体的に記載	備	考
してください。)		
保育職の求人は依然多い状況が今年度も続くと思われ、学生の個性に因する場合以外では特段問題はな		
い一方で、より本人の希望や個性に合った適切な就職先とのマッチングには課題がある。学科独自の事情		
として、就職先が実習先と共通しているため、本学科が教育方針の中で大切にしている質の良い教育・保		
育が実践されており、初任者を無理なく伸ばし育てて頂ける就職先を選択できることを重視している。進		
路指導担当部局と学科とのより具体的で綿密な方針と情報の共有、協議は早期に行い、学生に最も有益な		
就職指導ができる体制づくりをしたい。		

計画に対する実績および自己評価

新任保育者にとって望ましい質の良い教育・保育のステージを推奨する学科方針に沿った進路指導を行い、就職希望者は100%の就職が叶った。近年多くなっている企業主導型や小規模保育所に志望を切り替える学生への対応が必要な場合もあり、個別に丁寧な面談を行い、本人の思いを尊重しつつ、新卒の機会に有利な就職ができるよう対応した。

特別教育事業実施計画(教育GP等に向けた取組やプログラムの策定等について、 構想があれば具体的に記述してください。)	備	考
なし		

計画に対する実績および自己評価

特に行わなかった。

授業改善実施計画(前年度の反省を踏まえて具体的に記述してください。)	備	考
一昨年度に文部科学省より教職課程科目についてマストと示された ICT の活用やシラバスの詳細明示		
化に沿った授業実践が行われつつある状態であるが、非常勤講師担当科目を含めたすべての授業が一貫し		
た学科方針のもとに行われているよう省察を行う。授業改善アンケートからは、学生の学習力に合わせた		
教員の指導力と授業の工夫がより求められていることがうかがえる。 視覚教材やアクティブ・ラーニング		
をより取り入れ、学期ごとというよりも各授業回ごとに学生の理解度を省察し、日ごとに充実度の上がる		
努力を講じるよう、教員教育も行っていく。		

計画に対する実績および自己評価

科内会議及び非常勤講師連絡会において、文部科学省からの通知事項や学科方針としての授業のあり方について伝え、全教員が一貫した授業の質とその向上をめざせるようにした。視覚的な方法による授業の進め方はできている場合も多いが、アクティブ・ラーニングについては教員間で認識やスキルのばらつきがあるのが現状である。

研究事業計画(学術研究振興補助や受託研究、科学研究費、共同研究等の計画)

事業計画名称	事	業	計	画	概	要		備	考
学科カリキュラムの密度が	いら授業と実習が連絡	売している	年間スケ	ジュール	であり、	教員が研	究のために		
充てる時間がほとんどない。	犬態であるが、教職	果程認可に	も必要と	なる活字	業績は、	全教員か	最低限年間		
1本は実績を作る方針を徹底	する。教員の繁忙状	況を改善	するため	の方策は	依然必要	更な状態で	であり、学生		
数向上とともに努力項目であ	らる。								

計画に対する実績および自己評価

外部資金への応募等、大学教員の本務の一つである研究活動については今年度も困難な状況が継続した。教員によっては他 大学との共同研究を行えている場合もあるが、保育者養成研究所等の公募研究等に組織で参画できるような見通しはない。

社会活動計画

活動概要	備	考
感染症流行が終息した時期に、地域の障がい系施設等でのボランティア活動を再開する。さらに、発達		
支援や子育て支援の場と連携した活動に、学生も参加してボランティアができるよう仕組みを作る。教員		
に要請のある外部委員会や講演、スーパーバイザーの活動も可能な限り受託して社会貢献を行う。		

計画に対する実績および自己評価

学生の活動としてのボランティア等、社会貢献活動は、今年度も施設側の年間を通しての行事中止が継続し、行えなかった。専任教員による外部委員、講演講師活動は、要請に応じて実施することができた。保育技術や支援方法といった従来のテーマに加え、保育行政に関する提言やアドバイジングについても要請があり、貢献できる領域も広がった印象がある。

令和3年度 健康スポーツコミュニケーション学科 事業報告

教育事業計画

来年度の当該学科の教育実施方針	備	考
「支える」をキーワードに、子どもから高齢者まで様々なライフステージのスポーツ活動を支援し、『元気		
やたくましさを創り、多くの人を笑顔に』を実現できるスポーツ指導者の育成をめざす。また、指導者とし		
て豊かな人間性、社会性を涵養するため、「健スポ魂~5 つの心」に基づいて礼節を磨き、また、コミュニケ		
ーション力などのライフスキルを教育し、社会で求められる質の高いスポーツ指導者を育てることをめざ		
す。		

計画に対する実績および自己評価

令和3年度も引き続き、子どもから高齢者まで様々なライフステージのスポーツ活動を支援できるスポーツ指導者の育成に取り組んだ。その成果は、健康・体力づくりのフィットネス資格である健康運動実践指導者、グループエクササイズフィットネスインストラクター (GFI)、スポーツ指導者の基礎資格であるコーチングアシスタント、水泳コーチ3など多岐にわたり学生が資格を取得できたことに見られる。また、養成校認定を受けている資格取得率(合格率)はほぼ90%以上に達した。これらのことから、幅広い世代のスポーツ活動を支えるスポーツ指導者を育てることができる礎を築いたと考える。また、人間性、社会性の高いスポーツ指導者の育成に関しては、「健スポ魂~5つの心」によって、人間性教育を実践中であり、留学生1名を除き100%の進路決定を示した。

学生募集・広報につながる教育実施計画(低迷する入学者数を増やしていくためには、 どうするのか具体的に記述してください。)

備考

本年度も「魅力ある学科づくり」を念頭におき、学生募集・広報につながるべく教育内容を充実させるため、以下の取り組みを計画している。

1. 身近な高校との連携

附属高校をはじめ、高大連携の依頼を受けた高校、在学生の出身校などに年3回発行の学科新聞 HotTopicsを郵送し、赴く機会を増やし高校生の進路選択の一助とすることでアピールする。そのために は資格取得や進路情報を提供しながら学生生活をイメージしやすくする。つまり、高校への歩み寄りで学 生募集につなげていく。

- 2. フィールド活動を通した教育環境の充実
 - (1) 地域や自治体のイベントにボランティアとして積極的に参加する。
 - (2) 学内外での学科主催イベント実施による社会的地域貢献活動を通して、社会人基礎力や人間性を高める教育を進める。
- 3. これまでの教育内容を周知するために民間運営による大学・短期大学の進学情報サイトへの積極的参加や本学ホームページの工夫によるSEO (Search Engine Optimization) の改善により学科の認知度を高める。

計画に対する実績および自己評価

- ① 附属高校などへの高大連携(出前授業)は可能な限り参加し、高校生の卒業後の進路の助けになったと感じている。新型 コロナウイルス感染防止のためにリモートでの連携も取り組んだ。また、学科新聞 HotTopics の郵送においても継続し、 本学科を少しずつ理解してもらえているものと考えている。ただ、この情報が高校生まで届いているのか、届いたとして も心を動かせたのかは不明であるが、学生募集に関しては即結果につながるとは限らないので、継続して高校へ歩み寄り たい。
- ② (1) ボランティアにおいては新型コロナウイルスの影響を受けたが、学科としての取り組みや各ゼミ・授業などで、「JFA ユニクロサッカーキッズ in PayPay ドーム」(2021年7月4日)、「障がい者水泳教室」(2021年7月から複数日)、「秋の公園で遊ぼう」(2021年11月3日)、福浜健康体操教室(毎月第一金曜)に参加できた。
 - (2) フィットネストレーナーコースとキッズスポーツコースの多岐にわたる学外行事を令和3年度も継続し、学生募集を

念頭に広報につながる教育活動が実施できた。このことは、幅広い世代とのつながりやコミュニケーションを図る貴重な場となった。また、新型コロナウイルスの影響で本学の特色であるパラスポーツ体験会が開催できなかった。

③ 進学情報サイトへの参加や本学ホームページの工夫による SEO (Search Engine Optimization) の改善により学科の認知 度を高めることに関しては、本学科のみならず 6 学科の問題なので募集委員会を通して促したが、予想よりも進んだ実感がなかった。

生活指導、実習指導、資格取得等に係わる学生に対する教員のサポート・関わり方について具体的に記述してください。

備考

令和3年度は、以下のことに取り組む。

① キックオフ研修の実施:

新入生を対象に入学後の大学生活に関する指導、同級生および教員とのコミュニケーションを深めるために2日間の研修を実施する。本年度も新型コロナウイルスの感染状況により、コロナ対策をした上で、日帰りの研修とする。

② 学生ミーティングの実施:

1年生を対象に、前期、後期に1回ずつクラス担任が学生とのミーティングを実施する。ミーティングに際しては事前に大学生活等に関するアンケート調査を実施し、その後、データに基づいて生活指導、資格取得・進路指導を行う。また、授業受講態度、生活態度によっては随時個別指導を行う。2年生については、ゼミナール担当教員が学生とのミーティングを実施する。

③ オフィスアワーの設定:

学生が相談等で各教員の研究室に来訪できるように各教員のオフィスアワーを設定し、研究室前に掲示する。

④ 実習科目における実習指導:

スポーツ企業情報演習、スポーツ企業実習 I ・IIにおいて実習を行う学生に対して、実習に際しての心構え、服装等について事前、事後指導を行う。

⑤ 教員間での情報共有:

学生に関して発生した問題・課題については、情報を教員間で共有する。このことで、科内全体で適切な対応が可能になると考える。具体的には、毎月行われる学科会議において情報交換を行い、緊急を要する場合は速やかに招集する。

⑥ 仲間意識の醸成と信頼関係の構築:

学科という集団でイベント活動、ボランティア活動を積極的に行うことで、仲間意識を高め、クラスから外れてゆく学生が極力現れないようにする。教員は学生と積極的なコミュニケーションを図り、学生の考えや思いを理解できるように心がけ、学習指導や生活指導に役立てる。

⑦ 資格取得への指導:

各学年に対し、履修登録指導の際、もしくはキャリア演習、ゼミ活動の授業のなかで、将来にとっての 資格取得の重要性を説きながら取得サポートを行う。

計画に対する実績および自己評価

- ① 新型コロナの影響を受けつつ、新入生には不安なくスムーズに学生生活が始められるようにキックオフ研修を 4 月 10 日 の日帰り開催で実施した。大学生活に関する指導と同級生とのコミュニケーションを図るという目的は達成できたと考える。
- ② 毎年、1年生は担任が個別にミーティング(面談)を実施している。学生生活を中心に、進路や資格、その他の不安や悩みについても学生からの相談があった。2年生ではゼミナール担当教員が行っている。このミーティングの実施は学生の情報収集にはよい機会と考える。
- ③ 学科教員は全員がオフィスアワーを設定しており、研究室への来訪を促すためにドアには在席状況を示した表示をしている。また、新入生の総合演習ではキャンパスツアーを行い説明し、気軽に来訪できる雰囲気づくりと環境整備は出来ていると考える。
- ④ 事前指導は行ったが、事後指導は個別に行った。実習に対する学生の意欲が例年より高く、特段問題はなかった。実習先では個別に高い評価をいただいた。

- ⑤ 学科会議において情報交換を行った。また、会議以外でも知り得た情報は早急に教員間で情報を共有することができた。
- ⑥ 学科としての取り組みである学内外のイベント活動やボランティア活動を通して、学生とコミュニケーションをとる機会が増え、学生の考えを確認できる場面もあった。そのことが、学生指導に十分結びついていると考える。
- ⑦ 14 の資格養成校であることから、事あるごとに資格の有効性を伝え取得に向けたサポートをしてきた。しかし、この時世、 経済的な問題をかかえ取得を断念した学生も確認した。

社会や地域に対して魅力ある公開講座開催計画について(テーマ・講師・日程等を具体的に記載してください。なお、日程、講師等が未定の場合はどのようなテーマで実施するのか具体的に記述してください。)

備考

1.「楽動塾 2021」

2021 年度も引き続き、9~10 月に計3回、子ども向け運動教室を開催する。本学非常勤講師にご担当いただき、運動が苦手な子どもでも遊びながら楽しむことができ、なおかつ運動神経を高められる体験の導入を計画している。参加費は徴収せず、大学の公開講座として開催する。講師料や広報費、飾り付け等雑費として経費を要する。

<u>(予算:</u>

<u>10 万円)</u>。

2. 「西短キッズスポーツフェスティバル2021」

楽動塾の総括イベントとして11月に開催予定である。学生が企画・運営・指導までを行う本事業は2021年度で9回目を迎え、子どもを対象とした地域密着型の恒例イベントとなっている。当年度も地域の子どもたちが運動・スポーツに親しむきっかけづくりとなるイベントにする。内容は、ゲームや遊びをとおして運動神経を高められるような移動系・平衡系・操作系などの運動・スポーツを行い、身体を動かすことの楽しさや達成感、爽快感を味わう機会を提供する。

<u>(予算:</u> 5 万円)。

3. 「健康ランニングクリニック」

92 年バルセロナ五輪女子代表で、現在本学科の非常勤講師に、健康づくりのためのランニングの講義と実践をしていただく。健康志向の中で市民ランナーが増加傾向にある近年、ランニングの正しいフォームやケガをしにくい方法、砂浜などのトレーニング環境の活用法等を地域の人々に提供し、健康づくりの一助に取り組む。

<u>(予算:</u> <u>2 万円</u>)。

計画に対する実績および自己評価

1. 「楽動塾 2021」

からだを「楽」しく「動」かしながら運動への関心を高め、巧みにカラダや物を操り、運動神経を高めることを目的に3回開催として計画したが、新型コロナによる緊急事態宣言の影響で第1回目は中止とした。第2回目、第3回目は予定通り実施し、参加児童、保護者より大変好評をいただいた。そこでは、コロナ禍で多くの幼児・児童を対象とした行事がことごとく中止となり、子どもたちの運動活動への欲求が高まっていることを保護者から聞くこともできた。

2. 「西短キッズスポーツフェスティバル 2021」

楽動塾やこれまでのキッズ系の学びの集大成として西短キッズスポーツフェスティバルを実施した。9回目となる令和3年度も、学生自らが主となりプログラムやイベントの流れを作成し、学生のみで企画・運営・指導まで行った。

本年も楽動塾とともに、事故無く終了することができ、子どもさんや保護者の方からプログラムの内容や学生の対応など、今回も好評をいただいた。今後も地域社会における本学の社会的役割を果たしていくためにも継続する必要性があると強く感じた。

3. 「健康ランニングクリニック 2021」

学科イベントである「シーサイドももち駅伝 2021」と同時開催で、「健康ランニングクリニック 2021」を開催予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため開催を見送ることとなった。しかし、駅伝大会そのものは学内関係者のみで実施した。

4. 「福浜健康体操教室」 (計画にはない)

2020年から福岡市中央区から依頼され計画されていたが、新型コロナの影響で2021年から毎月第一金曜日に開催した。これは学生や教員が福浜地区の高齢者を中心に運動指導をするもので、少しずつ参加者数が増えてきて、今後も地域社会に貢献できることを実感した。

進路 (就職) 支援実施計画 (来年度いかに就職率や進学率を上げるか具体的に記載してください。)

備考

令和3年度も社会人基礎力に通じる「人間力」の向上と就業意欲を高めていくために、以下のことを計画 して取り組む。

- ① 就職情報サイトへの登録やマナー講座、履歴書作成指導を実施する。
- ② 就職模擬試験や適性検査を実施する。
- ③ 職場見学の実施:1 年次のスポーツ企業情報演習において各種スポーツ施設の見学を行い、将来の就職先を意識させる。
- ④ スポーツ企業実習の実施: 1 年次後期のスポーツ企業実習 I および 2 年次前期のスポーツ企業実習 II においてスポーツクラブ、フィットネスクラブ、幼児体育教室、スイミングクラブ、スポーツショップなどの現場で実習を行い、卒業後の進路をさらに意識させる。
- ⑤ 実習報告会の実施:1、2年次に行うスポーツ企業実習Ⅰ・Ⅱの報告会を学科全体で行う。
- ⑥ ゼミナールを活用した進路指導・支援をする。
- ⑦ 就活キックオフセミナーの実施:1年生を対象として就職活動を前に、各業界で働く方や卒業生(OB、OG)を講師として招き、講演会形式で各業界の話を聞く。その後、企業説明会さながらのブース形式をとり興味・関心ある企業様の話を聞く。
- ⑧ 就職活動報告会の実施:就職活動を終えた2年生から1年生に、就職活動の経験やアドバイスを伝えてもらう。

計画に対する実績および自己評価

- ① 就職情報サイトへの登録は1年次の1月に外部講師として株式会社マイナビから講師を派遣いただき、就職活動のスタートとしてサイトへの登録および就職活動の現状とこれからと題してご教授いただいた。マナー講座は初対面で重要な「スーツの着こなし講座」を専任教員が実施した。やはりスーツを着始める頃に効果があるようで気持ちの部分でも節度ある態度が身につくようでもあった。
- ② 就職模擬試験の第1回目は1年次11月、2回目は2年次5月に実施した。また適性検査においても1年次の10月に実施 した。試験および検査時期については適していると考えるが、これらが本来の学生指導および進路指導に活かしきれてい ないように感じとれた。
- ③ 夏季休暇を前に1学年対象に各種スポーツ施設・企業を見学し、今後の実習先および仕事へのイメージは出来たものと考える。
- ④ 実習を体験した学生は、仕事内容も理解し、就職への意識・意欲は高まったと思われる学生がいる一方で、イメージした 業界と異なり将来の職業選択に迷いを抱く学生も存在した。企業実習Ⅱの希望者がおらず、早めの企業実習Ⅰを履修する 傾向にあった。
- ⑤ 実習報告会を5月に行った。5月は1年次春期に実習した学生から、実習中に得られた情報や体験を報告した。1年生から も多くの質問があり、今後の実習先および就職先などの進路選択の一助となった。
- ⑥ 各ゼミナールで進路指導・支援を個別に行ったことから、留学生 1 名を除くと進路決定率 100%が達成できた。近年の進路決定率・就職率はおよそ 90%以上を継続している。
- ⑦ 令和3年度は1年生を対象とし、就職活動が始まりつつある1月に「就活キックオフセミナー2021」を1月20日に学内で開催した。各職場で働く方や0BOGの6社に来校いただき、前半は企業の概要説明等を集団説明いただき、後半は学生が興味ある企業のブースへ出向き個別説明を受ける形式をとった。個別説明を採用することにより、合同企業説明会のイメージと就職活動の意識向上へと結びついたものと考え、来年度も継続実施したいと考えている。
- ⑧ 就職活動報告会の実施では、就職活動を終えた2年生から1年生に、就職活動の経験やアドバイスを伝えてもらうことができた。このことにより、就職活動への意欲向上と進路決定を真剣にとらえるようになったと感じた。

特別教育事業実施計画(教育GP等に向けた取組やプログラムの策定等について、構想があれば具体的に記述してください。)	備	考
佐藤ゼミナールでは、2015年度から福岡市中央市民プール主催の『気軽にたのしく♪「健」スポ体操』(フ		
ロアエクササイズ)での指導を月1回担当している。この活動では公共スポーツ施設との連携により、双方		
が有するスポーツに関わる資源を地域社会に還元できるとともに、学生のスポーツ指導者としてのインスト		
ラクション能力を高める取り組みとしていた。しかし、令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大の状況		
から外部と連携しての行事は中止となった。令和3年度もコロナ感染の収束がみえない状況での実施は計画		
にない。しかし、感染状況やワクチン接種の状況をふまえ、実施条件がクリアすることになると実施してい		
きたい。		

佐藤ゼミナールでは、2015 年度から福岡市中央市民プール主催の『気軽にたのしく♪「健」スポ体操』(フロアエクササイズ)での指導を月1回担当している。この活動では公共スポーツ施設との連携により、双方が有するスポーツに関わる資源を地域社会に還元できるとともに、学生のスポーツ指導者としてのインストラクション能力を高める取り組みとしていた。しかし、令和3年度も施設利用者数の制限を受けて、レッスンそのものが中止となった。

授業改善実施計画(前年度の反省を踏まえて具体的に記述してください。) 備 考 ① 今年度も授業改善アンケートを実施し、各教員がそのアンケートを基に改善を行う。また、学科において前後期各 1 名ずつの非常勤講師を含む教員の授業を必ず参観し、工夫された授業を参考にできるように参観記録に記載し実行する。さらに、毎年開催している非常勤講師重絡会において本学科開催の分科会において専任・非常勤と連携をして課題解決に取り組み、教育の質の向上・充実を図っていく。 ② 2021年度も引き続き、1年生科目のキャリア演習 IA、IB、2年生科目のキャリア演習 IIの授業の中で、読み書き、計算、などの一般常識、スポーツ指導者としての専門知識などのテストを実施して基礎学力向上のためのリメディアル教育を行う。

計画に対する実績および自己評価

- ① 授業改善アンケートが令和3年度から学生ポータルサイト上で行われた。教員個別での改善資料のみの作成となり、アンケートの結果をまとめ学科内において情報共有からの検討はなされなかった。また、各学科で半期に教員1名の公開授業をすることになっており、公開授業とともに授業への参観も行った。各教員の特長が現れ参考にできる取り組みであった。今後学科内では、非常勤講師連絡会において専任・非常勤講師間でのより多くの情報共有が行えるようにすることが課題となった。
- ② キャリア演習で計画していた内容は実施でき、授業目標である社会人基礎力の向上は達成できたと思われる。就職活動で一般常識テストやSPIの出題があった2年生からは、キャリア演習で取り組んだ内容と類似の問題が出たとの意見も聞かれ、就職活動対策としても役立っているようである。教育効果は今後も継続して確認・評価していく必要があるが、毎年異なる学生の対応が必要でもあり、場合によって個別指導に近いカタチで指導を要する場面があった。

研究事業計画(学術研究振興補助や受託研究、科学研究費、共同研究等の計画)

事業計画名称	事	業	計	画	概	要		備	考
小川 茜 准教授									
① 他者の不安表情の知覚が自己の実践的な運動パフォーマンスに及ぼす影響									
昨年度に引き続き、同様のテーマに取り組む (2019-2021 年度科学研究費若手研究 3 年目)。2021 年度									
は実験を終わらせ、データの	つまとめに取りかかる	る予定では	ある。						

星子 和夫 教授

② トレーニング環境の照度変化による運動時の生理学的応答 外部環境の変化により、運動時の生理学的指標と主観的強度がどのように変化するのか探究する。

計画に対する実績および自己評価

小川 茜 准教授

① 他者の不安表情の知覚が自己の実践的な運動パフォーマンスに及ぼす影響 2019-2021 年度科学研究費若手研究 3 年目として取り組んだ。8 月~翌年 3 月まで産休・育休としたため研究期間の 1 年 延長を申請しており、研究課題は令和 4 年度に持ち越す計画である。

星子 和夫 教授

② トレーニング環境の照度変化による運動時の生理学的応答 基礎研究の段階で実施していたものの継続できなかった。今後の継続を検討している。

社会活動計画

活動概要	備	考
地域社会へのウエルネスに貢献できる人材育成のために、令和2年の新設科目「スポーツボランティア		
演習Ⅰ・Ⅱ」を前年度と同様、積極的に地域社会と連携し活動を実施する。昨年度は新型コロナウイルス		
の影響で延期となったが、以下のような事業を計画している。		
① 東京 2020 マラソンスイミング最終選考会 (FINA 主催) の運営に協力する。 (昨年度は中止)		
② 「PayPay ドーム de モーニング体操」へ参加し、地域の方々の健康づくりのサポートを行う。		
(昨年度は中止)		
③ 「福岡市障がい者スポーツ大会」などのスポーツイベントボランティア活動を行う。(昨年度は中止)		
④ 「市民スポーツフェスタ」などのスポーツレクリエーションイベントのボランティア活動を行う。		
(昨年度は中止)		
⑤ 「秋の公園であそぼう」などの地域社会における様々なイベントに協力する。		
⑥ 2019 年から福岡市中央区保健福祉センターから依頼された「福浜健康体操」(仮称)に指導者		
および指導補助者として協力していく。		

計画に対する実績および自己評価

- ①は新型コロナの影響で協力ができなかった。しかし、令和 4 年度に延期された「世界水泳 2022」にボランティア協力予定である。
- ②は新型コロナの影響で開催されず、今年度も協力ができなかった。
- ③④は新型コロナの影響で開催されず、今年度も協力ができなかった。
- ⑤11月3日文化の日に屋外の舞鶴公園にて、子どもや家族対象のレクリエーションイベントが開催され、ボランティアとして協力できた。学科主催で出展した運動ブースには過去最高の約200名の子どもが参加し、充実した地域貢献活動を展開できた。

令和3年度 メディア・プロモーション学科 事業報告

教育事業計画

令和3年度の当該学科の教育実施方針

メディア・プロモーション学科は、実務科目の中にコミュニケーション能力とプレゼンテーション能力を育成するために「アナウンスメント」「ボイストレーニング」「アテレコ」「MCトーク」「ダンス表現研究」「映像演技」「オーディション対策」などを配置し、良き社会人としての適格性を向上させるため「メイク」「マナーと表現」「茶道」などを配置。さらに学科選抜ユニットを編成し、現在オリジナル楽曲6曲保有、2020年より毎年新曲の制作、ミュージックビデオを発表している。また、課外授業の一環として「イベント出演」「学科ライブ主催」「学科発表会」を行うことで、より実践的な学びの場を提供、留学生は日本人学生と共にイベントや授業に参加する事で交流を深め、コミュニケーション力を向上させることができる。学科ならではの表現力向上や、異文化理解を目指した授業を通して、就職に役立つ基礎を養うことを目指す。

計画に対する実績および自己評価

メディア・プロモーション学科は、実務科目の中に配置した各科目を通じて、コミュニケーション能力とプレゼンテーション能力を育成する教育および、良き社会人としての適格性を向上させるための教育を行った。

また、学生による「アイドルユニット」「演劇ユニット」「声優ユニット」「制作チーム」を編成し、「イベント出演」「学科ライブ」「配信ライブ」「卒業公演」などを行うことで、実践的な学びの場を提供した。

留学生は、日本人学生と共にイベントや授業に参加する事で交流を深め、コミュニケーション力を向上させた。学科ならではの表現力向上や異文化理解のための授業を通して、就職に役立つ基礎を養った。

学生募集・広報につながる教育実施計画(低迷する入学者数を増やしていくためには、どうするのか具体的に記述してください。)

数年前から行っている学科ライブ活動、秋の学科主催全員参加型イベントの他、オープンキャンパスにおいても、外部から メディアで活躍する卒業生や、話題のタレントなどをゲストにした企画を考え、学科に興味を持ちそうな高校生へのPRを発信 する。

留学生に関しては、日本人学生と同様SNSでの発信を行うと同時に、学科の授業内容や就職サポートなどを資料としてまとめ、日本語学校の訪問や進学説明会への参加を積極的に行い、募集に努める。

計画に対する実績および自己評価

本学科に興味を持ちそうな高校生が好むテイストの「学科 PR 動画」を制作し、SNS で積極的に発信した。

本学科のターゲットである芸能志望の高校生が多数集まるイベント「ゲックルガールズフェス」に学科アイドルユニットが 出演し、学科のPRを行った。また、同イベントの雑誌「ゲックル」にPR記事を掲載する等、学科のターゲットになる高校生 への集中的なPRを行った。

本学科を進学先と考えそうな、高校生の部活(演劇部・ダンス部・放送部など)や、ダンススクール、ボーカルスクール、芸能事務所などへ、学科PR資料等の送付を行った。

留学生については、日本人学生と同様にSNSでの発信を積極的に行い、日本語学校への訪問などを行った。

生活指導、実習指導、資格取得等に係わる学生に対する教員のサポート・関わり方について具体的に記述してください。

メディア・プロモーション学科を構成する 11 期生(1 年生)に対しては「総合演習 $I \cdot II$ 」の必修科目の中で、きめ細やかな生活指導を心がける。10 期生に対しては本学科の専任教員 4 名による 4 個のゼミナールに於いて、それぞれの教員の誇りと責任意識の下に教育指導を心掛ける。

留学生には、日本企業への就職に役立つようなグローバル人材検定、パソコンのタイピング技能などの向上を目指し、まずは総合演習などの時間で学ぶ。また他部署と連携し就職支援を行うほか、2年生に対してはゼミを通して日本人学生、教員との交流を深め、面接や就職活動に役立つ情報やスキルを身につける。

1年生に対しては、必修科目「総合演習 I・Ⅱ」において、きめ細やかな生活指導を行った。2年生に対しては、本学科の専任教員4名による4つの「ゼミナール」において、個別に生活指導を行った。

留学生には、1年生に対しては、必修科目「総合演習 I・Ⅱ」において、日本企業への就職に役立つグローバル人材検定、パソコンのタイピング技能などの向上を目指す指導を行った。また 2 年生に対しては、他部署と連携して就職支援を行いつつ、「ゼミナール」において、日本人学生および教員との交流を深め、面接や就職活動に役立つ情報やスキルを身につける指導を行った。

社会や地域に対して魅力ある公開講座開催計画について(テーマ・講師・日程等を具体的に記載してください。なお、日程、講師等が未定の場合はどのようなテーマで実施するのか具体的に記述してください。)

学科主催のライブ開催。

「メディアプロモーション・コンサート in レソラ」は留学生も参加。

オンラインで、番組、ショートコント、演劇などの配信。

唐人町商店街、中央区役所などと連携した国際交流イベントへの参加。

唐人小学校での地域イベントへの参加。

ゼミナールにおける多様な国籍の外部留学生との交流授業。

計画に対する実績および自己評価

福岡国税局と福岡税務署の依頼により、学科アイドルユニット「西短MP 学科さくら組」が福岡税務署の「一日税務署長」を務め、国税局の問い合わせシステム「チャットボット」のPR を行うなど、福岡税務署の広報活動に協力した。(令和3年11月12日)

財務省福岡財務支局の依頼により、財政についての教育用動画のナレーションを学科の学生が担当した。(令和3年12月) また、同じく福岡財務支局の依頼で、詐欺防止のための教育用ドラマの制作を行った。(令和4年3月~)

能古島および福岡の活性化のために令和3年度から始まったイベント「能古島国際映画祭」に本校として協賛し、また、実 行委員を本学科教員が務め、福岡の各界有志と共に社会や地域の発展のために尽力した。また、同映画祭のオープニングイベ ントに、学科アイドルユニット「西短 MP 学科さくら組」が出演し、地域の活性化に貢献した。(令和4年3月26日)

これらの活動の成果が評価され、福岡国税局、財務省福岡財務支局、能古島国際映画祭実行委員会との協力活動は、令和4年度以降も継続していくことになった。

進路(就職)支援実施計画(来年度いかに就職率や進学率を上げるか具体的に記載してください。)

メディア・プロモーション学科は、メディア関連業界への就職を希望する学生に対し、1年次の後半に「宣材」を作成し、学生は各々入りたい事務所にデータを送付している。又、表現者としてだけでなく TV 制作会社の AD などの就職先も確保しつつ、様々な芸能事務所との繋がりを模索しており、学内オーディションや説明会などを行っていく事で、より現実に即した情報を得、進路先の確保に努める。

就職説明会への引率、面接練習を行う学生への働きかけ、履歴書や志望動機等に関するアドバイスなど、日本語能力試験の受験指導などを積極的に行うことで、就職へとつなげる。また、編入希望の学生に対しては、ゼミナールでの指導を通して支援する。

計画に対する実績および自己評価

メディア関連業界への就職を希望する学生に対し、1年次の後半に「宣材」を作成するよう指導し、学生は各々入りたい事務所にデータを送付した。また、「総合演習」などの授業で、様々な芸能事務所の説明会を行い、現実に即した情報を得、進路先の確保に努めた。同じく「総合演習」において、実践的な進路先の確保につながるよう、声優事務所のオーディションなどを行った。

編入希望の学生に対しては、「ゼミナール」での指導を通じて支援した。

留学生に対しては、就職説明会、面接練習、履歴書等に関するアドバイスや、日本語能力試験の受験指導などを積極的に行うことで、就職を支援した。

特別教育事業実施計画(教育GP等に向けた取組やプログラムの策定等について、	構想があれ	び其
体的に記述してください。)		
tal.		
計画に対する実績および自己評価		
なし		
授業改善実施計画(前年度の反省を踏まえて具体的に記述してください。)		
451		
なし		
計画に対する実績および自己評価		
なし		
研究事業計画(学術研究振興補助や受託研究、科学研究費、共同研究等の計画	1 1)	
	4/	
事業計画名称 事業計 画概要	備	考
事業計画名称	7/用	与

事業計画名称		事	業	計	画	概	要	備	考
なし									
計画に対する実績および自己なし	已評価								
740									

社会活動計画

	活	動	概	要	
なし					
計画に対する実績および自己評価なし					

令和3年度 別科日本語研修課程 事業報告

教育事業計画

事業名称	事業概要	事業経費(千円)	備考
短期日本語日本文化	春季・夏季プログラム		
研修			
地域交流	福浜小学校国際理解授業・当仁校区夏祭り等		
国際交流活動	学内国際交流パーティー・国際理解授業		
教師研修講演会	講演会開催		
オンライン授業	日本語オンライン授業		

計画に対する実績および自己評価

- 9月 韓国短期大学グローバル現場学習 4週間日本語・職能研修実施(9校20名参加)
- 10月 留学生と地域住民交流事業 とうじんまち歩きツアー実施 短大留学生16名参加
- 12月 体験授業 唐人町商店街・寺社インタビュー (18名参加)
- 2021年度入学生は半期オンライン授業となり、2022年度4月入国予定。
- ・韓国短期大学の日本語研修は学生からも在籍校からも高い評価を得た。2022年度も継続し、各大学独自の研修依頼もあり、 正規留学の可能性も広がった。
- ・地域住民との交流は、3年目となり、とうじんまちづくり協議会・当仁公民館とのネットワークも一層確かなものとなっている。留学生が地域住民とふれあう貴重な機会となっている。
- ・2022年度は、留学生受け入れ校として、教職員のスキルアップとなる講演会を計画したい。

施設・設備関係事業(建物・設備の改修や教育機器の整備等の計画)

事業名称	事業概要	事業経費(千円)	備考
備品購入	テレビ買い替え		
	プロジェクター購入		

計画に対する実績および自己評価

予算はありましたが、経費削減のため実行できなかった。

学生募集・広報事業

事業名称	事業概要	事業経費(千円)	備 考
パンフレット作成 イベント参加 他	SNS での宣伝広告 ベトナムイベント参加者への広報		

計画に対する実績および自己評価

Facebook での広報

イベントは開催されなかったため2022年度に実行する。

令和3年度 総務部 事業報告

教育事業計画

事業名称		事	業	概	要	事業経費(千円)	備	考
なし								
計画に対する実績およっなし	び自己評価						l	

施設・設備関係事業(建物・設備の改修や教育機器の整備等の計画)

事業名称	Ī	事業	概	要	事業経費(千円)	備	考
なし							
計画に対する実績およ	び自己評価						

人事管理関係事業(就業状況把握や人事考課制度導入、FD・SDに向けた事業等の計画)

事業名称	事業概要
自己点検・評価報告書	令和4年度に控えた3回目の第三者評価に向け、前年度にあたる本年は自己点検・評価報告書の策定
の作成	に取りかかる予定である。

計画に対する実績および自己評価

令和3年9月30日に令和3年度第1回自己点検・評価委員会を開催し、3年度および4年度に向けた自己点検に取りかかった。まずは執筆箇所を分担し、各担当者から提出された部分からとりまとめを開始した。

また、令和3年8月27日に実施された令和4年度短期大学認証評価ALO対象説明会へ平山ALOとともに総務部総務課職員も参加し、理解を深めた。

SDの実施	SD活動を実施する。

計画に対する実績および自己評価

1回のみの開催となったが、外部講師を招き教職員合同で実施した。

- ●実施日時:令和3年10月7日(木)午前と午後2部制
- テーマ :個人情報保護と情報セキュリティ

講座内容としては、本学職員が情報セキュリティ上、最低限知らなければならない事項がわかりやすく説明されており、参加者においては正しく理解されたものと思われる。今回の研修に参加できなかった教職員については、使用したテキストと別途アンケートを配布し、自習形式での学習を求めた。

令和3年度 学務部 事業報告

教育事業計画

事業名称	事業概要	事業経費(千円)	備考
非常勤講師会の開催	本学の教育の質の保証・向上を目的として非常勤講師 との情報の共有を図るために、新年度の授業開始に向け て講師会を開催することを教務部において計画してい る。	400	

計画に対する実績および自己評価

下記の日程で、非常勤講師会を新型コロナウイルス感染防止に努めつつ、対面式(一部 Zoom を利用)で開催した。参加者人数は51名、うち Zoom 参加者11名。全体会及び学科別分科会を通して、本学教育目的をはじめ授業における留意事項、修学支援コンピュータシステムの運用面の説明など所要の情報共有を行った。

非常勤講師連絡会

開催日 令和4年3月24日(木)

場所 052教室

施設・設備関係事業(建物・設備の改修や教育機器の整備等の計画)

事業名称	事業概要	事業経費(千円)	備考
修学支援コンピュータ	学務・進路に係る事務処理コンピュータシステムにつ	21,000	
システムの導入	いては、30年以上更新されておらず、現在のICT技	保守1,528/年	
	術が反映されていないため、学生・教職員が利用するに		
	あたり不便な点がある。Web を利用した修学支援システ		
	ム機能を持ったものに更改し事務処理の合理化、学生サ		
	ービスの向上を図りたい。		

計画に対する実績および自己評価

バリアントソフト株式会社の修学支援コンピュータシステム「キャンパスマジック」を令和3年度4月から運用開始した、システム導入期間が、非常にタイトなスケジュールであったが、ICTコンサルタント柿山氏の支援をいただきながら、新年度の運用開始にこぎ着けた。3年度は初めての運用であったので、様々な課題が発生して逐次対応した。

このシステムの運用により、教務、学生支援、進路指導などインターネットを利用して包括的に管理できるようになった。 そのため、授業、試験、進路指導等における、学生、教員、事務職員間の連携を合理的かつスピーディーに行い事務処理の 合理化並びに学生サービスの向上につながっている。

学生募集・広報事業

事業名称	事業概要	事業経費(千円)	備考
入試関係	沖縄地方試験受験者については、2020年は0名であ		
①地方試験	ったが、今年度も引き続き実施し学生募集に繋げたい。		

沖縄からの令和4年度入学生は3名であった。

緑地環境学科が沖縄募集活動を重視しており、担当主事による募集活動も行っている。

沖縄の高校の先生の要望もあり引き続き募集活動及び地方入試を実施し次年度に繋げたい。

②オープンキャンパス

福岡県内の高校を重点的にオープンキャパスの参加 を促す。福岡県外からの参加意欲を高めるために送迎バ スを出す地域の高校に対しては送迎バスのPRを行い 参加者数増に繋げたい。

計画に対する実績および自己評価

3年度の夏季オープンキャンパスの参加者数は296名(前年比54名減)であった。

8月21日の開催予定日をコロナ流行のため、9月12日に変更したことによる影響があると思われる。 県外からのバス利 用者数は3年度35名(前年度比2名増加)であった。

3年度の春季参加者数は23名(前年比10名減)であった。

募集、広報活動において、オープンキャンパスの周知を行い高校、生徒の参加に繋げていきたい。

③広報(受験雑誌、学内 パンフレットの請求数

広報誌含む)

請求者件数 元年 9,214

2年 8.280

受験雑誌への掲載については、費用対効果を勘案し生 徒の反響が少ないものは見直していく。 広報誌 Noress を年4回発行しその都度広報活動を行い

たい。

計画に対する実績および自己評価

3年度のパンフレット請求件数は、9,248件(前年比プラス968件)であった。

ここ数年の請求件数は、8,200~9,200件程で推移している。

受験雑誌等の業者の選定について、業者別の請求部数の動向を見ながら、募集効果が高いものを選考していく。

④ 進学ガイダンス

進学ガイダンスについては、高校生と直接面談する場 であり、募集上重要である。教員の協力を得ながら、福 岡県内の進学ガイダンスについては、可能な限り参加を していきたい。

計画に対する実績および自己評価

大勢の高校生がホールに集合する進学ガイダンスについては、新型コロナウイルスの影響により開催会場が限定されてお り、5会場に参加したが、参加者は少ない。

高校内ガイダンスについては、感染防止に注意しつつ随時開催されており、参加者数は昨年度より48名の増加であった。 入学者獲得に向けて、例年通り募集活動を続けていきたい。

会場ガイダンス 高校内ガイダンス

2年度 5会場32名

43校943名

3年度 5会場37名

49校991名

⑤外国人留学生関係

国内の日本語学校の募集活動に力を入れた結果、外国 人留学生が増加しているので、今後も力を入れたい。

計画に対する実績および自己評価

4年度留学生の入学者数は21名(前年比35名減少)で、新型コロナウイルスの影響で厳しい入国管理及び経済不安が原 因であり、外部要因の転換を待つところである。

2年度国内外春季外国人留学生入学生53名 (法14 緑1 社37)

3年度国内外春季外国人留学生入学生16名 (法 3 緑1 社12)

別科生の入学生減少により、別科からの入学生が18名減少した。

3年度春季入学生6名 (法4 社2)

4年度春季入学生5名 (法1 社3メ1)

人事管理関係事業(就業状況把握や人事考課制度導入、FD・SDに向けた事業の計画)

事業名称	事業概要	事業経費(千円)	備	考
学外FD研修会及び	FD委員会の活動の一環として、コンソーシアム京都	100		
学内FD勉強会	が主催するFDフォーラムの研修に参加している。			
	また、外部講師を招聘して、FD勉強会を実施する。			

計画に対する実績および自己評価

FD委員長がFDフォーラムに、オンラインで参加し、シンポジウム、分科会で研修を受けた。テーマは、①「大学教育の場を問い直すーポストコロナに向けて」②「遠隔授業で教育・学習の場はいかに変化したか」③「地域とともに創る学びの場」
④「初年次教育が大学教育に果たす役割」⑤「コロナ禍における保育士養成」である。

また、FD委員会主催でFD勉強会を次のとおり開催し研修を行った。

日時 令和4年3月3日 (木) テーマ 「ハラスメントについて」

講師 倉富 史枝

令和3年度 学生支援部 事業報告

進路 (就職) 支援実施事業計画

事業名称	事業概要	事業経費(千円)	備	考
進路指導	学生の就職状況は、コロナ禍の影響もあり、例年以上			
	に厳しくなっているが、昨年末の事務部署の統合によ			
	り、学生生活の支援を行いながら総合的に学生の進路開			
	拓をサポートしていく。			
	(1) 就職模擬試験	300		
	全学科の1年生対象に実施。学生の基礎学力がどの程			
	度であるかを把握し、その結果を参考として進路希望の			
	面談等に活用する。			
	(2) 適性検査	300		
	全学科の1年生対象に実施。学生の職業の適性を判断			
	する参考資料とする。			
	(3) 進路参考資料の購入・配布	100		
	・「就職活動ハンドブック」全学科1年生に配布			
	@1,500 × 200 			
	・各種試験問題集、資格関係等の書籍購入、学生に貸			
	し出し			

計画に対する実績および自己評価

(1) 就職模擬試験

4月22日(木) 3限目就職模擬試験を実施。

健康スポーツコミュニケーション学科(2年) 15名 平均点 98.0点

(全国平均115.8点)

6月17日(木)3限目就職模擬試験を実施。

緑地環境学科 (1年)34名平均点129.2点社会福祉学科 (1年)16名平均点109.9点保育学科 (1年)43名平均点109.6点

メディア・プロモーション学科 (1年) 16名 平均点128.0点

11月14日(木)3限目就職模擬試験を実施。

ビジネス法学科 (1年) 30名 平均点121.5点

健康スポーツコミュニケーション学科(1年) 12名 平均点100.8点

(全国平均121.7点)

(全国平均122.1点)

経 費 4月実施分 @1,400× 15名= 21,000

6月実施分 @1,400×109名=152,600

11月実施分 @1,400× 42名= 58,800

合 計 232,400

(2) 適性検査

10月 7日(木) 3限目、全学科1年生を対象に適性検査を学科ごとに実施。

10月28日(木)3限目、新型コロナ対策のため1年生を前半と後半に分け052教室に集め、10月7日に実施した適性検査の結果を学生に配布し業者より解説を行った。

ビジネス法学科40名、緑地環境学科32名、社会福祉学科16名、保育学科44名

健康スポーツコミュニケーション学科12名、メディア・プロモーション学科18名

福祉関係・保育関係の求人は比較的安定しているが、		
一般企業からの求人が減少していることに対して進路開		
拓・企業開拓に力を注ぐ。同時に、業者主催の各種就職説		
明会等を活用し、各学科のキャリア演習その他の時間に		
組み込んでもらい学生の積極的な就職活動を促す。その		
ために、進路指導の年間計画を各学科の教員に周知させ		
る。		
(1) 求人依頼書の送付	2 0	
一般企業・福祉施設・保育園・幼稚園等へ求人依頼		
書を送付し、求人票を出してもらう。依頼先は学生が		
就職を希望する事業所、過去の就職実績のある事業所		
(2) 業者主催各種説明会、相談会の開催	100	
学生と企業をつなぐ業者を活用し、企業情報、採用		
試験情報を学生に提供。就職に積極的ではない学生の		
意識を活性化させる。特に卒業間近の未決定者に対す		
る最終的に、事務職員だけではなく、業者の力を借り		
て進路決定の後押しをしていく。		
(3) 企業等の訪問	5 0	
内定先のお礼などで企業、施設、保育園、幼稚園を		
訪問。同時に次年度の就職先の開拓。特に一般企業の		
開拓に力を注ぐ。		
	一般企業からの求人が減少していることに対して進路開拓・企業開拓に力を注ぐ。同時に、業者主催の各種就職説明会等を活用し、各学科のキャリア演習その他の時間に組み込んでもらい学生の積極的な就職活動を促す。そのために、進路指導の年間計画を各学科の教員に周知させる。 (1) 求人依頼書の送付一般企業・福祉施設・保育園・幼稚園等へ求人依頼書を送付し、求人票を出してもらう。依頼先は学生が就職を希望する事業所、過去の就職実績のある事業所(2) 業者主催各種説明会、相談会の開催学生と企業をつなぐ業者を活用し、企業情報、採用試験情報を学生に提供。就職に積極的ではない学生の意識を活性化させる。特に卒業間近の未決定者に対する最終的に、事務職員だけではなく、業者の力を借りて進路決定の後押しをしていく。 (3) 企業等の訪問 内定先のお礼などで企業、施設、保育園、幼稚園を訪問。同時に次年度の就職先の開拓。特に一般企業の	一般企業からの求人が減少していることに対して進路開拓・企業開拓に力を注ぐ。同時に、業者主催の各種就職説明会等を活用し、各学科のキャリア演習その他の時間に組み込んでもらい学生の積極的な就職活動を促す。そのために、進路指導の年間計画を各学科の教員に周知させる。 (1) 求人依頼書の送付 一般企業・福祉施設・保育園・幼稚園等へ求人依頼書を送付し、求人票を出してもらう。依頼先は学生が就職を希望する事業所、過去の就職実績のある事業所(2)業者主催各種説明会、相談会の開催 100 学生と企業をつなぐ業者を活用し、企業情報、採用試験情報を学生に提供、就職に積極的ではない学生の意識を活性化させる。特に卒業間近の未決定者に対する最終的に、事務職員だけではなく、業者の力を借りて進路決定の後押しをしていく。 (3) 企業等の訪問 内定先のお礼などで企業、施設、保育園、幼稚園を訪問。同時に次年度の就職先の開拓。特に一般企業の

・11月11日 (木) 大学新聞社主催で、各学科1・2年生の留学生対象にオンラインと対面で就職説明会を実施。1年生に対しては日本で就職する上での意識付けを行う事が出来、2年生に対しては実際に求人票を頂くことができた。次年度以降も引き続き留学生を対象とする就職説明会を実施していく予定である。

また、1月20日(木)同じく大学新聞社主催で、ビジネス法学科1年生を対象に学内業者説明会を実施した。当日はコロナの影響もあり、オンラインで1社、対面で2社参加。学生にとっては就職活動が始まる直前のため非常に貴重な体験となった。次年度以降も実施していく予定である。

経 費 大学新聞社へのお礼の品 2,851

情報共有	事務職の部署の統合により、学生部との情報共有を強化	7 0	
	する。特に履修状況や成績概況に関する情報を活用しな		
	がら学生へ就職先、編入先を紹介していく。		

計画に対する実績および自己評価

部署の統合により、学生の学納金入金状況や成績状況、学友会活動状況などの把握が容易となり、これらの情報を活用することにより、進路の指導もより具体的に行うことができた。

卒業生支援	卒業生を対象に、アンケート調査を実施。職業定着率、就	2 0	ì
	業状態などを把握し、情報をフィードバックさせ、学生		ì
	の進路支援に役立てる。		ì
			ì

計画に対する実績および自己評価

前年度の卒業生を対象に、卒業生と就職先に対してアンケートを実施。戻ってきた回答は学科ごとにまとめて学科で情報を共 有するようにしている。

・卒業生アンケート回収率・職場アンケート回収率

ビジネス法学科緑地環境学科

16.7%

52.4%

11.6% 69.4%

社会福祉学科	19.5%	83. 7%
保育学科	24.5%	85.7%
健康スポーツコミュニケーション学科	30.0%	50.0%
メディア・プロモーション学科	8.8%	61.1%
経費 卒業生アンケート送料	@89×196通=17, 444	
職場アンケート送料	@89×166通=14,774	
合 計	32, 218	

施設・設備関係事業(建物・設備の改修や教育機器の整備等の計画)

事業名称	事業概要	事業経費(千円)	備 考
レイアウトの変更	進路指導室、国際交流支援室、学生部が統合されたことによる学生支援室内のレイアウトの変更予定。		

計画に対する実績および自己評価

三部署の統合により、学生の混乱を軽減するため、窓口に利用目的の表示を掲示した。また、元々学務課に所属していた学生部が移動してきたことに伴い、個人ロッカーの鍵の管理や忘れ物対応も行うことになったので、学生の利用が増加した。今後はもっと学生が利用しやすい環境作りに努めていきたいと考える。

進路、進学先等への広報事業計画

事業名称	事業概要	事業経費(千円)	備考
事業所・大学訪問等	内定先お礼、就職先開拓のため、企業・福祉施設・幼稚園・保育園等を訪問。 留学生受け入れ先等を重点的に訪問。	200	

計画に対する実績および自己評価

COVID-19の感染拡大の影響により、ほとんど訪問はできなかった。しかし、数は少ないが、事前に予約をして、施設に対し進路開拓の訪問を行った。引き続き、広報部長に企業開拓・訪問を依頼し、その結果について情報を共有するようにした。

その他

事業名称	事業概要	事業経費(千円)	備考
研修会・セミナー等へ	コロナ禍の中、多くの研修会・セミナーがオンライン		
の参加	による開催になると思われるが、可能な限り対面式の		
	研修会・セミナーにも参加予定		

計画に対する実績および自己評価

11月には、オンラインで福岡地区短期大学の「就職担当者連絡協議会 情報交換会」に参加。各短期大学の就職状況や取り組みについて、情報交換ができた。

また2月には、対面で商工会議所主催の「学校と企業との就職情報交流会」に参加。一般企業の人事担当者に直接話を聞くことができて、求人状況について確認することができた。

幼稚園・保育園		5 0			
懇談会					
就職説明会等					
計画に対する実績および	が自己評価				
次のとおり、各協議会、	情報交換会、説明会にオンラインや対面で可能な限り参	加した。			
6月に対面で「久留米市	市保育協会 意見交換会」に教職員2名参加。				
6月にオンラインで「ネ	畐岡県幼稚園教諭・保育士就職問題連絡協議会 総会」 に	参加。			
7月に対面で「福岡市和	公立幼稚園連盟 就職説明会」本学において開催。				
10月に対面で「福岡」	具幼稚園振興協会 養成校と幼稚園の懇談会」に教員参加				
令和4年1月に対面で	「福岡市保育協会 養成校と福岡市認可保育園との意見交	喚会」に教員参加。			
インターンシップへ	また、インターンシップについても積極的に学生に案	100			
の参加 内し、学生の就職活動の意識向上に繋げていく。					
計画に対する実績および	が自己評価				
九州インターンシップ技	能進協議会の夏季インターンシップに11名の申込があっ	たが、新型コロナの影響に	より最終的に6名の		

九州インターンシップ推進協議会の夏季インターンシップに11名の申込があったが、新型コロナの影響により最終的に6名の参加となった。

経費九州インターンシップ推進協議会年会費100,000夏季インターンシップ学生参加費@10,000×6名=60,000合計160,000

留学生支援・留学生募集・広報事業

事業名称	事業概要	事業経費(千円)	備	考
留学生の支援	2021年1月時点での留学生数は、短大生147名、研究生4名、			
	別科生35名、別科聴講生3名の計189名が在籍している。			
	1. 留学生支援			
	2021 年度は、学内部署編成により新しく学生支援部が設置され			
	たため、留学生に対して厚みのある支援が出来るようになった事			
	を踏まえ、出席・生活等の指導と卒業後の就職・進学の支援にも			
	力を入れていく。			
	1) 短大生活支援			
	留学生の出席状況の確認は、昨年同様毎月の出席状況を調べて			
	指導していく。出席率は、入国管理局への在留資格期間更新申請			
	時に重要であるため、そのことを十分に伝えて指導していく。欠			
	席が1週間続いた場合は、メールや電話での連絡の他に自宅まで			
	出向き所在を確認する。			
	2) 生活支援			
	2020 年度のCOVID-19の影響で、アルバイトが出来なく			
	なっている学生もいて、生活はかなり厳しくなっている。2021年			
	度もこの状態が続くと考えられるため、生活支援が重要になると			
	思われる。学費から生活費までをアルバイトで賄っている学生も			
	多いので、アルバイトが出来ないのはかなりの打撃である。週28			
	時間の資格外活動を遵守させることも重要であるため、年に数回			
	給与明細のコピーを提出させアルバイト時間の確認をする。少な			
	くとも各期1回は個別面談を実施し、生活面での情報(住所・ア			
	ルバイト先・国民健康保険料の支払いなど)を得ながら指導して			

いく。

3) 就職支援

就職支援については、年間計画をたてて、個人面談をとおして 就職を考えている学生の把握をしたうえで、2021年度は、企業開 拓など積極的に動きながら、しっかり就職に繋がる支援をする。

2. 留学生寮(宿舎)

宿舎については、例年通り入学者数に応じてアパート・マンションなど借り上げて寮とする。

入国時には空港まで出迎え、入国後は区役所や銀行口座の開設 など在校生の協力を得ながら支援をする。

計画に対する実績および自己評価

令和3年度も、COVID-19 の感染拡大が続き、福岡県は緊急事態宣言、まんえん防止等重点措置宣言が発出され、留学生への影響が大きかった。

(短大生活支援)

問題を抱える学生については、教員や、学生相談室、保健室とも連携し、個別に連絡をとりながら、留学生が就学を続けられるように指導を行った。また、学納金については、延納や分納について配慮し、留学生の負担を軽減するように努めた。さらに、各種奨学金について積極的に留学生に案内した。

(就職支援)

留学生の就職は、大変厳しい状況であったが、日本語能力試験 N2 以上を取得していれば、受け入れ可能な企業もあるので、まずは日本語能力試験を受験するように指導に力を注いだ。このことについては、個別に面談して、受検状況を把握し、各学科の教員からも受検を勧めてもらうように依頼した。しかし、留学生の就職に向けては、更に、卒業生や、留学生同士のネットワークも活用しながら、開拓を進めていく必要があると思われる。

留学生募集	COVID-19の影響で、海外渡航が出来ない可能性が高い	
	ため、学生募集については、別科HPの多言語対応など方法をい	
	ろいろ考える必要があり、大きな課題である。ベトナム・中国で	
	の現地募集は厳しい状況だが、渡航ができるようになった場合は、	
	ベトナム中心の募集と考えている。	
	また、卒業生や在校生の力を借りることも必要になってくると考	
	えられる。	

計画に対する実績および自己評価

令和3年度も、COVID-19の影響により、出入国制限が続いたため、海外に出向く学生募集は全くできなかった。その代わり、オンラインによる個別面談や入試を取り入れ募集活動を行った。また、国外からの留学生募集が難しかったため、国内における日本語学校などへの募集を強化した。

広報事業	本学には、入試広報担当者と広報担当者がいるため、担当者と相	
	談しながら広報にも力を入れていく。	
	チラシなども必要に応じ、作成していく。	

計画に対する実績および自己評価

広報部長の企業訪問に同行して、情報を共有するようにした。また、報告書も学生支援部や事務局内で回覧し広く周知するようにした。さらに、入試広報担当者との情報交換も密にして、学生の内定情報を提供し、高校訪問に役立つチラシ等を作成してもらうようにした。

令和3年度 財務部 事業報告

施設・設備関係事業

事業名称	事業概要	事業経費((千円)
=施設関係=	・3号館1階、4階エアコン入れ替え工事	21,	120千円
	・1号館1階保健室水栓工事		468千円
	・1号館1階保健室前トイレ設置工事	1,	617千円
	・4号館給水施設ポンプ取替工事		990千円
	・音楽室パーティション新設	2,	530千円
	・113教室電話機設置・ネットワーク配線		118千円
	・CampusMagic 導入に係る LAN 配線		187千円
	合計	27,	, 030円
=設備関係等=	・全館 Fortigate 100E 基本保守込	;	3 2 3 千円
	・Wi-Fi ルーター設置	-	118千円
	・全館 キャンパスマジック導入費	27, 9	932千円
	・学務作業室印刷機	4	440千円
	・PC 機器一式(事務職員用他6台分)	4	429千円
	・PC 機器一式(測量士補補講用15台分)	1, 4	421千円
	・PC 機器一式(講義学生貸与用40台分)	3, 7	714千円
	・緑地環境学科オートレベル(4台)	4	499千円
	・光波距離	1, 3	364千円
	・ピンボールプリズムセット(3セット)	-	180千円
	・コインベンダー	2	250千円
	・カラーレーザープリンタ	-	121千円
	・吹奏楽部用楽器一式	4, 5	518千円
	・自動券売機	1, 2	210千円
	・厨房ガステーブル	;	356千円
	・厨房食洗機	2,	122千円
	・2号館プロジェクター導入工事等	6, 6	630千円
	合計	51, 6	6 2 7千円

その他事業

事業名称	事業概要	事業経費 (千円)	備考
修繕費	・234教室エアコン室外機	192千円	
	・3号館1階管理室内副受信機取替工事	660千円	
	・マイクロバスバーストによる板金工事	442千円	
	・ブラインド修理(5教室分)	192千円	
	・アナウンスブース音響修繕工事	140千円	
	・052教室プロジェクター修繕	121千円	
	・ 4 号館室外機修繕	385千円	
	・1号館屋上防水工事	490千円	

・1号館エレベーター修繕	3 2 8 千円	
・042、043教室LED取付	371千円	
・二丈キャンパス送電調査修繕	682千円	
・241 教室室外機修繕	127千円	
・二丈キャンパス農具舎シャッター修繕	385千円	
・221教室、3号館2階準備室エアコン	165千円	
・調理実習室水栓修繕	253千円	
・2号館1階天井部、本館3階床外小修繕	198千円	
・1号館非常階段ドア修繕	127千円	
・二丈キャンパス給排水修繕	275千円	
合計	5,533千円	

令和3年度 広報部 事業報告

学生募集事業

事業名称	事業概要	事業経費(千円)	備考
高校、通信高校、日本	生徒募集の基本は高校訪問なので、教職員は、昨年訪問し		
人学校訪問	た高校を訪問してもらい、進路指導の先生とコミュニケー		
	ションを深めてもらう。		
	事務職員の高校訪問についても、訪問後のアフター		
	フォローを行い、進路指導の先生とつながりが途切れない		
	ように対応して行く。		
	昨年訪問実績のある福岡都市圏の12校の通信高校は、令		
	和 3 年度入学者の実績もあるので、オープンキャンパス案		
	内の訪問を始め、複数回訪問する。		
	同じように昨年訪問した36校の日本語学校は、OCの参加		
	者が多く入学につながったので、中野社会福祉学科長、高向		
	別科長にも、従来直接回っている日本人学校は訪問してい		
	ただき、その他の学校とも00案内で訪問し、進路指導の先		
	生とのコミュニケーションを図り入学につなげていく。		

計画に対する実績および自己評価

- ・令和3年度実績は、高校149校、通信高校12校、日本語学校43校 合計204校を訪問した。
- ・先生との同行訪問も、保育の富永先生、社会福祉の中野先生、緑環の西川先生、永島先生と8校同行訪問出来た。
- ・日本語学校もコロナで生徒が入国出来なく、生徒数は大幅減だったが、前年の36校から、愛心国際、大村文化学園、 日本アカデミー航空、福岡聴覚特別学校、杏林国際、NILS、弘堂国際学園など新規で7校増で訪問できた。
- ・通信高校も12校全て訪問しコミュニケーションを深め、入学につながった。
- ・コロナ下で訪問するのに大変な一年だったが、オープンキャンパスの周知は達成できた。
- ・ほとんどの大学はオープンキャンパスの案内が郵便やメールだが、直接名刺を添えて届けると気持ちが伝わりやすく、 数校からお礼のメールが来た。

令和3年度 附属高等学校 事業報告

教育事業(新学科設置や新コース設定、資格取得に向けた新カリキュラム策定、教育プログラムの策定等の計画)

事業名称	事業概要	事業経費(千円)	備考
1. 伝統文化授業必修	令和2年度までは、伝統文化授業(お茶など)を選択		
化	授業としていたが、令和3年度入学生より、必修授業		
	とする。		
計画に対する実績およ	び自己評価		
令和3年度入学生より	必修授業とした。八女市の特産の一つであるお茶に触れ、	、且つ礼儀作法を習得できる	る良い機会となり、
非常に有意義な体験と	なっている。		
		Γ	т
2. 健康スポーツコー	令和2年度までは、健康スポーツコース募集対象者		
ス募集内容変更	を、特別強化・強化クラブに所属する生徒としていた		
	が、令和3年度より、スポーツに興味がある生徒を対		
	象にする。		
計画に対する実績およ	び自己評価		
健康スポーツコースは	 従来、本校指定強化クラブ生徒のみが在籍するクラスでも	あったが、令和3年度より制	訓限をなくした。そ
の結果、スポーツが好	きなクラブに属さない生徒が、健康スポーツコースを選。	ぶことができるようになった	<u>.</u>

施設・設備関係事業(建物・設備の改修や教育機器の整備等の計画)

事業名称	事業概要	事業経費(千円)	備考
1. コンディショニン	健康スポーツコース及び、クラブ等生徒のサポートを	13,807	金額は02ボックス
グ室設置	目的とした部屋を設置する。(02 ボックス・プロテイ		にかかわる金額
	ン・トレーナーなど)		
計画に対する実績および	汽自己評価		
O2ボックスを設置し専	昇属のトレーナーを雇用した。また、西短附高校オリジナ	ルプロテインを作成し、強	化クラブの生徒に配
付した。また、硬式野球	P部は念願の11年ぶり6度目の甲子園出場を果たした。		
2. 野球場照明工事(L	2018年度から年次進行している野球場照明LED	3, 025	全四箇所
ED化)	化工事。2018年度一塁側、2019年度三塁側、		令和3年度
	2020年度はライト側、2021年度レフト側を工		完了
	事実施し完了となる。		
計画に対する実績および	以自己評価		
4年かけて、野球場グラ	ラウンドの全ての照明をLED化する事ができた。		
3. 吹奏楽部楽器等の	部員が増えるため新規に楽器を購入したい。	6, 485	令和3年度新入部
充実			員30名

予定通り新規に楽器を購入し楽器が不足することはなかった。また、令和3年度吹奏楽コンクールにて、創部初となる九州大会 金賞受賞を果たした。

人事管理関係事業(就業状況把握や人事考課制度導入等の計画)

事業名称	事	業	概	要	事業経費 (千円)	備	考
なし							
計画に対する実績およびなし、	計画に対する実績および自己評価						

学生募集事業 (中学校訪問等の計画)

事業名称	事業概要	事業経費(千円)	備考
1. 中学校・学習塾対	1.体験入学(年6日)、各種説明会(中学校PTA・中	3, 500	
策費	学校教員対象・塾対象等)、中学校での出前講座・出		
	前授業、個別入試相談会(年10日)等の関係費		
	2. 中学校・塾訪問及び情報交換会等の諸経費		
	3. 昨年度入試問題集印刷費		
	4. 入試業務関係費		
	5. 西短バッグ・クリアファイル・募集専用封筒作成・		
	購入		
	6.参加お礼ハガキ(体験入学・個別入試相談会)・中学		
	校・塾への暑中お見舞い・年賀ハガキ作成		
	7. 本校紹介DVD作成		

計画に対する実績および自己評価

コロナ感染による非常事態宣言のため $5 \cdot 8$ 月の体験入学中止、そのため $1 \cdot 0 \cdot 1$ 1 月実施予定の 2 日間を 4 日間にして実施した。総中学生申込数 $8 \cdot 2$ 2 名だったが(昨年度 $5 \cdot 3$ 0 名、一昨年度 $6 \cdot 5$ 7 名)、当初の実施予定だと、あと $2 \cdot 0$ 名以上の入学が見込めており、定員を満たせたのではないかと考える。

また、中学校PTA来校は1校のみ(広川中21名、コロナ前4~5校で200名以上来校)、中学校での説明会・出前授業は18校(例年25校、コロナ感染予防のため実施しない中学校多数、特に2~3月は実施0)、中学校対象入試説明会35校(例年37~38校)、塾対象入試説明会34名(昨年度53名)、個別入試相談会16組で苦戦した。ただ、広報部職員・部活動顧問の丁寧な訪問・応対で中学校からの信頼を例年以上に得て昨年度より31名多い181名の入学生(+21%)を得ることができた。(特に、年度末は対公立という考えで募集活動を強化しました。)

バッグ・クリアファイル・体験入学者への記念品など情報分析し行ってきたが、予算の関係で、「募集専用封筒」・「参加お礼はがき」・「中学校との情報交換会」・「塾との情報交換会」ができなかった点は反省点である。

2. 広告宣伝費	1. 学校案内・みなみの太陽 (年2回)・ポスター	4, 500	
	2.種類(コース説明用、体験入学・個別入試相談会用)・		
	コース別オリジナルリーフレット作成		
	3. 八女市封筒広告		
	4. 高校進学用雑誌(フクト・昭栄広報)等への広告		
	5. スクールバス側面本校紹介掲示		
	6. ホームページ更新		

各チラシ作成は、安い費用でできた。「コース別リーフレット」・「八女市封筒広告」・「スクールバス側面翻刻紹介」は時間と費用面で実現できなかった。

高校進学用雑誌(フクト・昭栄広報)は例年通り安価で強くアピールできた。

ホームページ更新も年度後半から積極的に情報発信することができた。次年度はインスタ・ホームページをさらに強化して定員を満たすよう最大限努める。

•		
1. 私学展	1, 500	
2. 学校イメージアップ活動(校外ポスター掲示・紹介		
資料置き場設置)		
3. 中学校での勉強会・面接対策会(ノート配付)		
4. 入試合格者用問題集 (専願ノート) +お勧め読書本紹		
介		
5. 生徒募集成功校視察研修		
	2. 学校イメージアップ活動(校外ポスター掲示・紹介 資料置き場設置)3. 中学校での勉強会・面接対策会(ノート配付)4. 入試合格者用問題集(専願ノート)+お勧め読書本紹介	2. 学校イメージアップ活動(校外ポスター掲示・紹介 資料置き場設置) 3. 中学校での勉強会・面接対策会(ノート配付) 4. 入試合格者用問題集(専願ノート)+お勧め読書本紹介

計画に対する実績および自己評価

コロナ感染状況から私学展は中止した。久留米市城島図書館・大木町図書館にポスター掲示・紹介資料置き場を設置し好評であった。中学校での勉強会・面接会は、定期訪問校47校で実施した点は中学校との信頼関係をより深めることができた。特に、受験生へノートを配付し取り組み状況のアドバイスを送った点は、他校で実施されておらず中学校側から本当に感謝された。

専願指導も83%の専願合格者を2度実施し、本校の真剣さを中学校側は感じ取っていただいたと考えている。「お勧め読書本紹介」はできておらず、「視察研修」も時間と費用面で実施できなかった。

令和3年度 収益事業部 事業報告

施設・設備関係事業(建物・設備の改修や教育機器の整備等の計画)

事業名称	事業概要	事業経費(千円)	備考
全熱交換器更新	前回更新から 10 年経過し、更新時期がきている為、	6, 490	・全14テナント
工事(空調設備)	11 テナントの空調設備の全熱交換器時期更新工事を		・令和2年度に
	実施予定。		3テナント工事済
全熱交換器更新	1テナントのみ実施。	990	R3. 12. 11
工事(空調設備)			実施
	業者による推奨の為、更新工事を予定していたが、		
	R3.11 月にビルの売却をした為、修理が必要なテナン		
	トのみ実施。		

人事管理関係事業

事業名称	事	業概	要	事業経費(千円)	備	考
なし						

その他事業

事業名称	事業概要	事業経費(千円)	備 考
なし			

資 料 ②

令和4年5月1日現在の学生、教職員数

1. 設置する学校、学科等の入学定員、現員等(令和4年5月1日現在)

西日本短期大学

学 科 名	入学定員 (人)	収容定員 (人)	入学者数 (人)	在籍者数 (人)	充足率 (%)	備考
ビジネス法学科	50	100	44	88	88. 0	
緑地環境学科	50	100	29	68	68. 0	
社会福祉学科	50	100	46	99	99. 0	
保 育 学 科	90	180	45	90	50.0	
健康スポーツコミュニケーション学科	30	60	19	31	51. 7	
メディア・プロモーション学科	40	80	16	36	45. 0	
計	310	620	199	412	66. 5	

別科

課程名	入学定員 (人)	収容定員 (人)	入学者数 (人)	在籍者数 (人)	充足率 (%)	備考
日本語研修課程	150	150	2	12	8.0	

附属高校

課 程 名	入学定員 (人)	収容定員 (人)	入学者数 (人)	在籍者数 (人)	充足率 (%)	備考
普 通 科	200	600	181	454	75. 7	

2. 教職員の人数(令和4年5月1日現在)

〈教員数〉

短期大学 (学長は含まない)

\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\	(1 \$180 8.8.7)									
学科名	教 授	准教授	講師	助教	助手	小 計	非 常	勤	小 計	合 計
ビジネス法学科	3	0	1	1	0	5	客員 2名	19	21	26
緑地環境学科	4	1	1	2	0	8	客員 4名	12	16	24
社会福祉学科	2	0	4	1	1	8	客員 1名	15	16	24
保 育 学 科	4	0	1	3	0	8	客員 1名	24	25	33
健康スポーツコミュニケーション学科	2	1	0	1	0	4	客員 0名	17	17	21
メディア・プロモーション学科	2	1	1	2	0	6	客員 1名	14	15	21
計	17	3	8	10	1	39	9	101	110	149

別科

課程名	別科長	教 員	小 計	非 常 勤	小 計	合 計
日本語研修課程	(1)	(2)	(3)	5	5	(3) 5

※注…()内の3名は、各学科の教員数でカウント。

附属高校

課程名	校 長	副校長	副教頭	教諭	養護教諭	講師	小 計	非常勤	小 計	合 計
普 通 科	1	1	2	16	1	13	34	12	12	46

〈職員数〉

()内は嘱託 一内数一

学科名			
法 人 本 部	1	名	(1)
ビジネス法学科	6	名	(1)
緑地環境学科	5	名	(1)
社会福祉学科	7	名	(1)
保 育 学 科	6	名	(1)
健康スポーツコミュニケーション学科	2	名	
メディア・プロモーション学科	3	名	(1)
別科	0	名	
計	30	名	(6)
附属高校	9	名	(4)
合計	39	名	(10)

※臨時職員除く。

3. 理事・評議員・監事について (令和4年5月1日現在)

(1) 理 事

	8条1項1号	溝口	虎彦
	8条1項2号	新宮	五三.
		溝口	智之
	8条1項3号	阿利	欽章
		今永	一成
	8条1項4号	田坂	大藏
		北嶋	藤孝
監	事		
	15条	内田	信行
		柴田	浩勝

(2) 評議員

21条1	項1号 「	中野	幹子	久保田	家且	大浦	太津也
	,	冨永	明子	橋本	五男	多賀	晃
	7	技元	一登				
21条1	項2号	河利	欽章	執行	英利	古家	司
	,	小山	徹志	大里	公二	近藤	久文
	Į,	別府	壽信	川波	慎太郎	一山	幸子
	2	星子	和夫	髙宮	さやか	弓削	博輝
	-	水浦	逸	井上	靖		
21条1	項3号 洋	冓口	虎彦	溝口	智之	真子	一博
	;	北嶋	藤孝	新宮	五三		
21条1	項4号	森田	修示	北野	哲也	古田	雄三